

CC-103CDII

NATURAL SOUND STEREO COMPACT COMPONENT

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・コンパクトコンポーネントステレオCC-103CDIIをお買求めいただきまして、まことにありがとうございます。

CC-103CDIIの優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくためにこの取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

お使いになる前に	
特長	1
豊かなオーディオライフのために	2
接続の前に	3
接続のしかた	4～7
各部の名称とはたらき	8～16
アンプ部の使い方	
ご希望のソースを再生するには	17
音質や音量を調整するには	18
サラウンドについて	19
マイクとソースのミキシング	20
チューナー部の使い方	
ラジオ放送やテレビ音声を聞くには	21/22
デッキ部の使い方	
テープを再生するには	23/24
テープのリバース再生	25
テープのリレー再生	26/27
テープの自動頭出し演奏 (YMS:YAMAHA Music Search)	28
録音するには	29/30
ダビングをするには	31/32
CDプレーヤーの使い方	
CDを演奏するには	33/34
CDの選曲をするには	35/36
CDのプログラム演奏	36～38
CDのリピート演奏	39
CDのインデックス演奏	40
CDのリモコン演奏	41
CDのタイマー演奏	42
ご参考	
デッキ部のお手入れ(末長くご愛用いただくために)	42
カセットテープについて	43
著作権について	44
故障かなと思ったら	45/46
参考仕様	47/48

特長

■倍速Wオートリバースデッキ

- テープのA面/B面に、連続して倍速ダビング(複写録音)をすることができます。
- DECK AのA面/B面を再生したあと、自動的にDECK BのA面/B面を、連続リレーで再生することができます。

■VHF/UHFステレオ音声多重テレビチューナー

VHF(1～12CH)、UHF(13～62CH)のテレビ音声を、ステレオ放送や音声多重(2ヶ国語)放送で聞くことができます。

■本格的防磁スピーカー

テレビの近くに置いても画像が乱れにくい防磁スピーカーを採用。

■高性能CDプレーヤー

ランダムプログラム演奏、リピート演奏(全曲、一曲、プログラム)、オート演奏をはじめ、インデックス演奏など、コンパクトディスクに収められている情報を最大限に生かした、多彩な演奏が、シンプルなキーオペレーションで可能となりました。

また、付属のリモコンユニットをご使用になれば、離れたところから基本操作のほとんどに加え、10キーを使ったスピーディな選曲をすることができます。

■サラウンド回路内蔵

劇場で聞く迫力と臨場感やコンサートホールでの音場感に似た音が楽しめます。

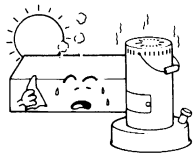
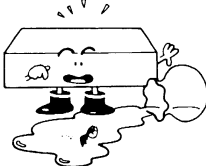
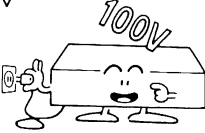


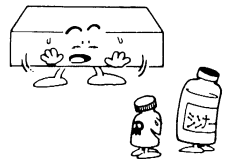
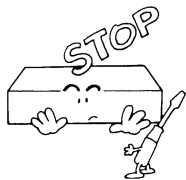
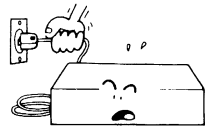


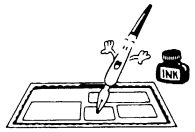
■音質重視設計

- 実用最大出力25W+25W(EIAJ)
- 5素子グラフィックイコライザー内蔵。

■VTR、ビデオディスク音声専用入力端子付

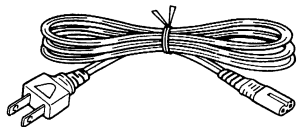
VTRやビデオディスクを迫力ある音で楽しめる音声専用入力端子を設けています。

豊かなオーディオライフのために

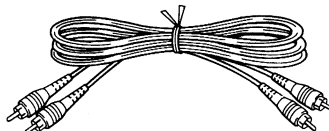
<p>高温をさけて！</p> 	<p>ほこり・水気をさけて！</p> 	<p>国内のみ使用可</p> <p>家庭用電源コンセント AC100V</p> 	<p>不安定な場所をさけて！</p> 
<p>ヘッドの清掃を</p>  <p>42ページの「テック部のお手入れ」をご覧ください。</p>	<p>薬物厳禁</p> 	<p>開けないで！</p> 	<p>引っばらないで！</p> 
<p>取扱説明書はかならず 保管してください。</p>  <p>ファイルなど</p>	<p>こわれた？</p>  <p>45/46ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。</p>	<p>保証書の手続きを！</p> <p>お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万サービスが必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。</p> 	

MIXING 録音可能？

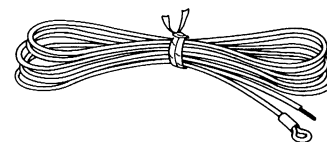
接続の前に —— 付属品を確認してください。



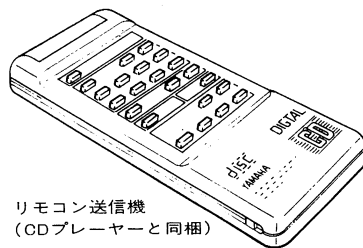
電源コード
(CDプレーヤーと同梱)



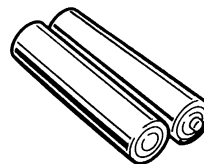
出力コード
(CDプレーヤーと同梱)



FM/TV用アンテナ
(センターと同梱)



リモコン送信機
(CDプレーヤーと同梱)



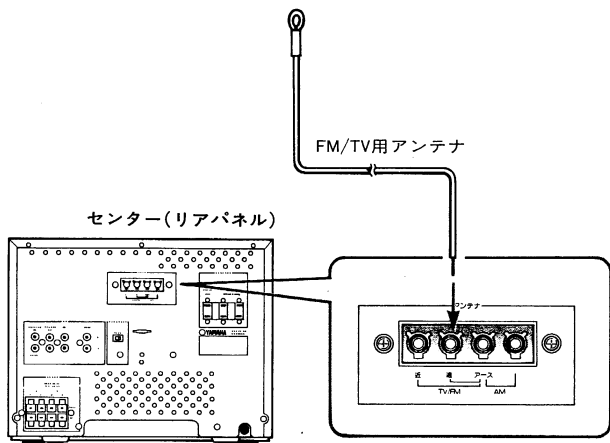
乾電池
単3(SUM-3)
(CDプレーヤーと同梱)

接続のしかた

■アンテナをつなぐには 〔FM/テレビ音声〕

●付属のFM/TV用アンテナ

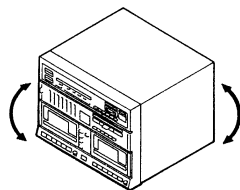
付属のFM/TV用アンテナをひずみや雑音の少ない最もきれいに聞こえる位置に、押しピンなどで固定します。



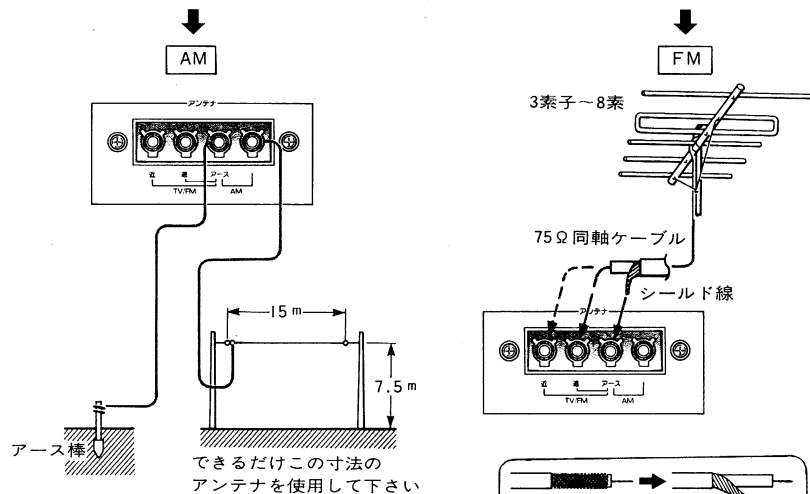
〔AM〕

●内蔵アンテナ

本体の向きを変えて、放送が最もきれいに聞こえるように置きます。ビルの中では窓の近くに置くと聞こえやすくなります。

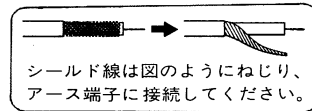


それでも放送がよく聞こえない場合は



付属のアンテナを使用してもきれいに聞こえないときは、市販の屋外アンテナを屋根または地上に張ります。アース線をつなぐとさらに感度が良くなります。

※アース線は絶対ガス管につながないでください。



シールド線は図のようにねじり、アース端子に接続してください。

■屋外アンテナを立てるときは

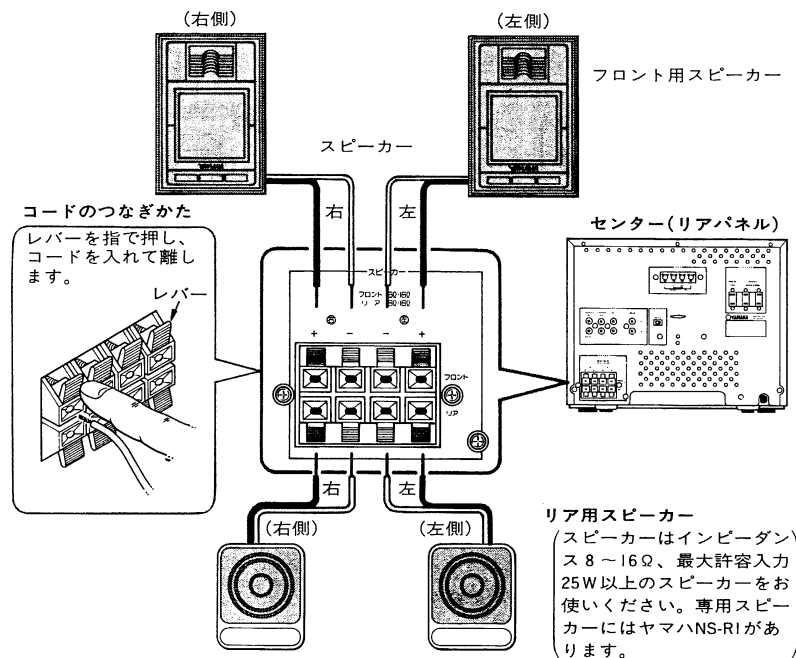
- 送電線の下は危険ですので避けてください。
- あまり高い所は落雷のおそれがありますので立てないでください。
- 道路や線路の近くは雑音が入りやすいので、なるべく離してください。

※屋外アンテナをたてるときは、販売店におたずねください。

付属のアンテナを使用してもきれいに聞こえないときは、市販の屋外アンテナを使い、最もよく受信できる高さ、位置、方向に固定します。

※普通は“遠”の端子につないでおきますが、放送局の近くは電波が強いため音声のとぎれたり、雑音が入ることがありますので、そのときは“近”の端子につながります。

■スピーカーをつなぐには



付属のスピーカーをフロント用につなぎます。白い線が入っている方が⊖マイナスです。⊕プラス、⊖マイナスをまちがえないようにつないでください。

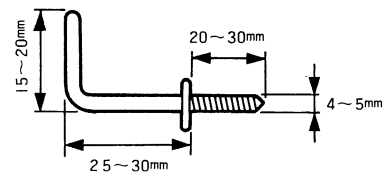
リア用に市販のスピーカーをつなぐと、本機のSURROUND機能により、劇場で聞く迫力やコンサートホールの臨場感をあなたのお部屋で楽しむことができます。インピーダンスが8Ω未満、最大入力25W未満のスピーカーはつながらないでください。アンプ部の電気回路やスピーカーをいためることがあります。

※レコードプレーヤーとスピーカーは離して置いてください。近すぎるとハウリング(ワーンという音)をおこすことがあります。

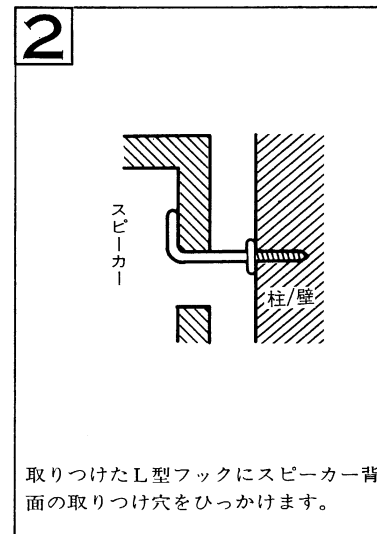
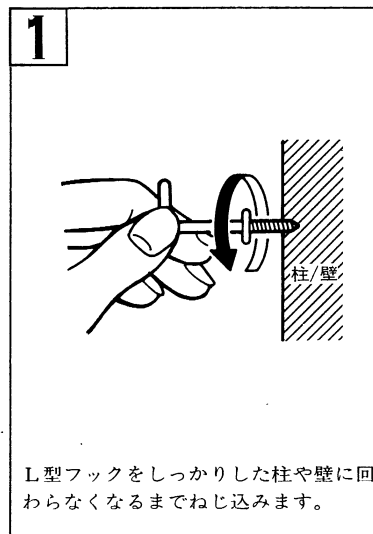
- スピーカーコードをショートさせたり、インピーダンスの低いスピーカーをつながないでください。故障の原因になります。

◆スピーカーを壁にかけて使うには

- 下の図で表わすような寸法の市販のL型フックを使用してください。

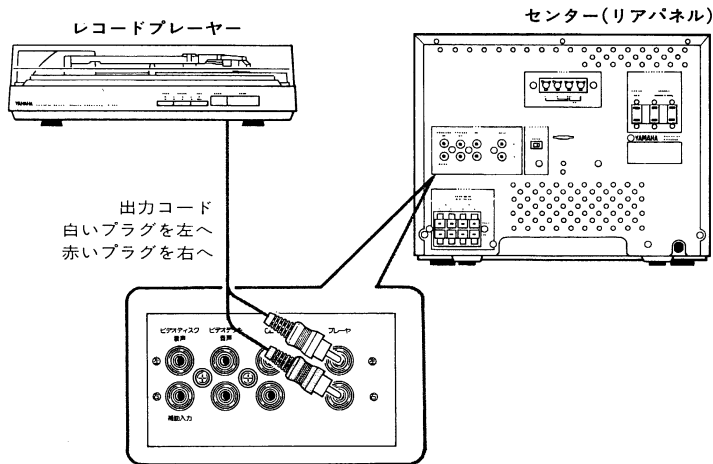


- 取りつける壁の種類によっては(コンクリートなどの場合)、L型フックが使えない場合があります。
- 団地などにお住まいの方は、取りつける前に家屋管理者の許可を得るようにしてください。
- 薄い壁や、内サンのないベニヤ張りの壁、しっくい壁などには取りつけないでください。(取り付け後、充分強度を確認してからお使いください。)
時間がたつとL型フックが抜けて、スピーカーが落ちることがあり大変危険です。



■レコードプレーヤーをつなぐには

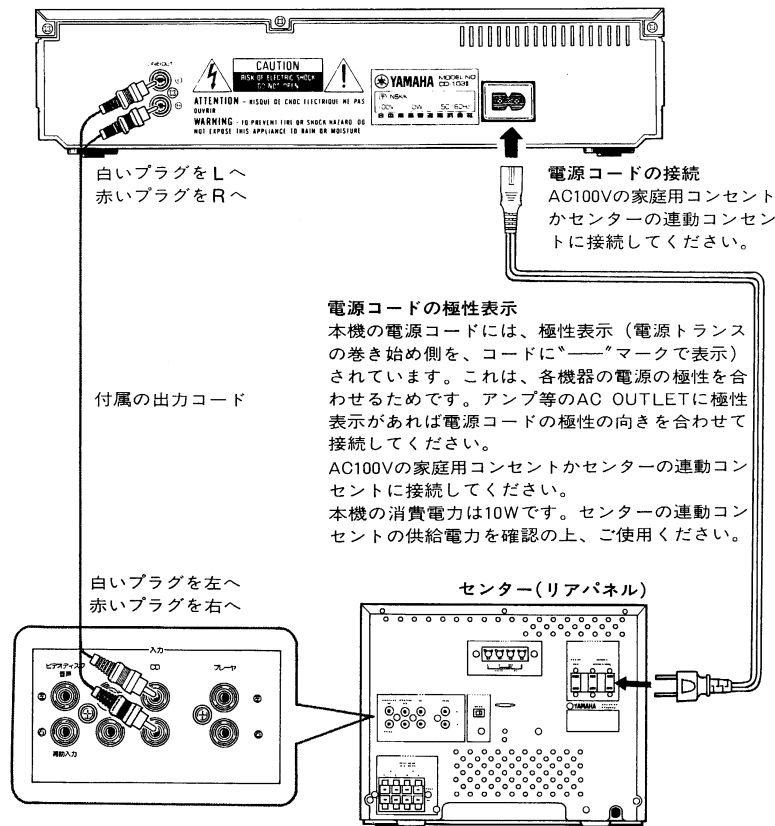
- POWERスイッチを「OFF」にし、プレーヤーの出力コードをセンター(8ページ)のプレーヤー端子へ接続します。このとき、コードの左、右を正しく接続してください。



レコードプレーヤーは、ヤマハP-103II(別売品)をお使いください。
その他のプレーヤーをご使用の際は、フォノイコライザー内蔵のものをお使いください。

■CDプレーヤーをつなぐには

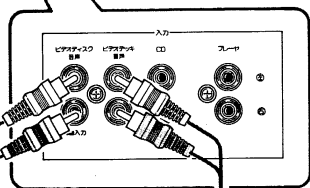
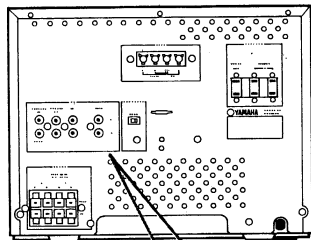
- 本機を設置する際は、振動のないしっかりとした場所を選んでください。また、アンプなど熱を発生する物の上には置かないでください。
- 接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。
- 本機の出力は、センター(8ページ)のプレーヤー端子に接続しないでください。



■ビデオディスクプレーヤー/ビデオデッキをつなぐには

- 接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。

センター(リアパネル)



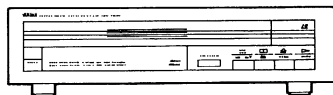
ステレオ
ピンコード
(別売品)

(ステレオの場合)

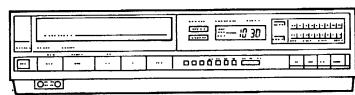
(モノラルの場合)

音声出力端子へ

音声出力端子へ

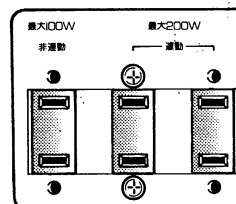


ビデオディスクプレーヤー
またはその他の機器



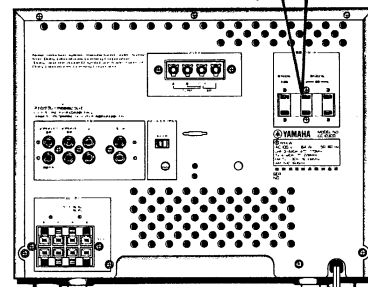
ビデオデッキや、
その他の機器

■電源コードをつなぐには



この製品と組み合わせて使う機器の電源コードをつなぐことができます。
連動コンセントは接続機器の電源をセンターのPOWERスイッチでON/OFFできますが、非連動コンセントはできません。
最大300W(連動200W、非連動100W)までつなぐことができます。

センター(リアパネル)



家庭用100V ACコンセントへ。50Hz、60Hzのどちらでも使えます。

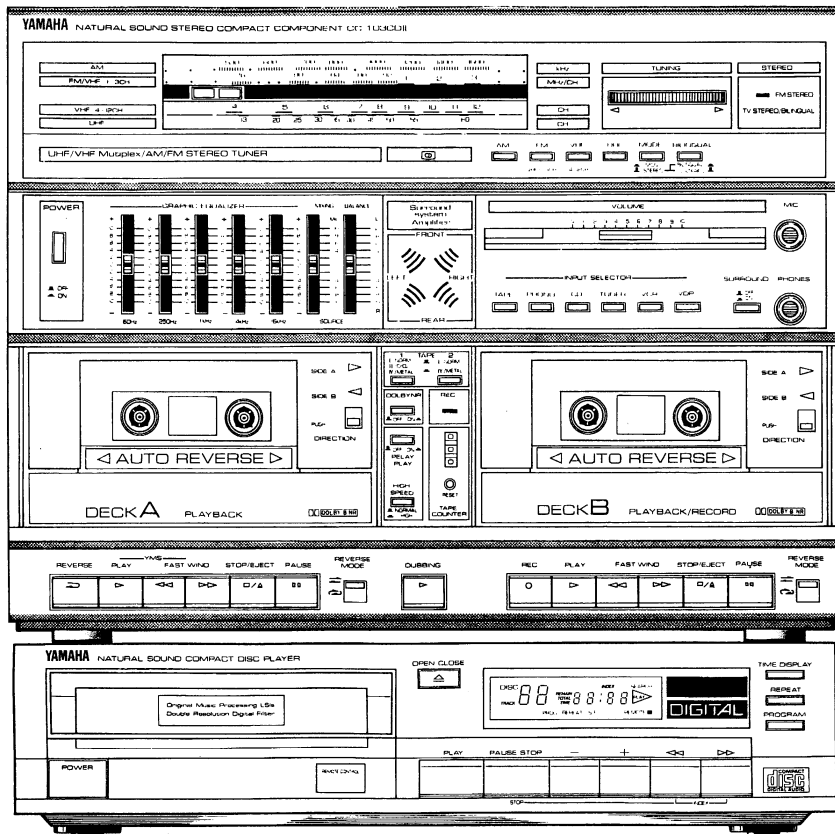
POWERスイッチを「OFF」にしたあとでつなぎます。

使用中にスピーカーから「ブーン」という音(ハム)が出るときは、差し込みプラグの左右を逆につなぎかえてみてください。

- 長い間お使いにならないときは、電源スイッチを「OFF」にしたあと差し込みプラグをコンセントから抜いておきましょう。

各部の名称とはたらき

●本機は、センター(チューナー、アンプ、デッキ)とCDプレーヤーとスピーカーによって構成されています。

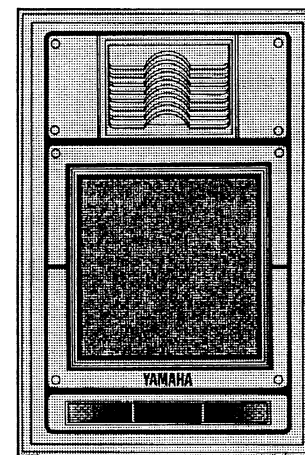


チューナー部

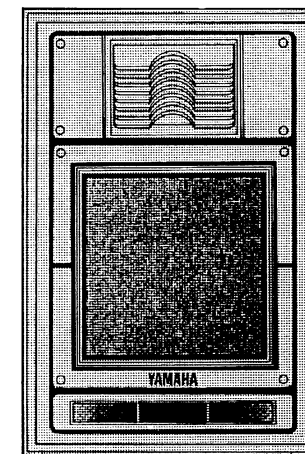
アンプ部

デッキ部

CDプレーヤー



スピーカー(左側)



スピーカー(右側)

チューナー部

バンド切換ボタン

バンドを選択するボタンです。

- AM放送を聞くときは、“AM”にします。
- FM放送や、テレビの1～3チャンネルを聞くときは“FM”にします。
- テレビの4～12チャンネルを聞くときは、“VHF”にします。
- テレビの13～62チャンネルを聞くときは、“UHF”にします。

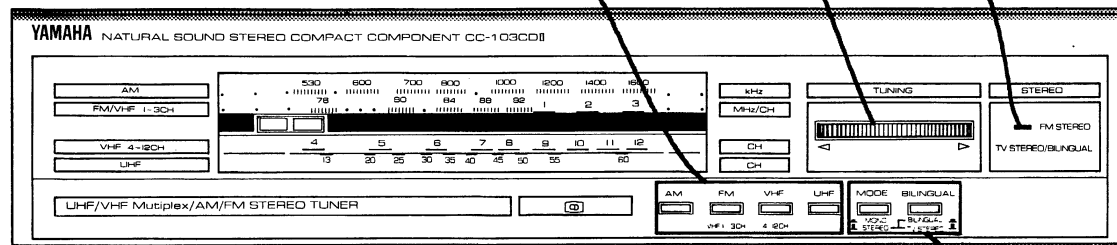
チューニング TUNINGツマミ

ラジオ放送やテレビ音声を選局するときに使います。

FM/TV ^{ステレオ} ^{バイリンガル} BILINGUAL(2ヶ国語)インジケーター

FMやテレビの放送局が、ステレオ放送や音声多重放送をしているとき、その放送を受信すると、このインジケーターがつきます。

- ステレオ放送や、音声多重放送を受信しているときに、^{モード}MODEボタンを“^{モノ}MONO”にしてもインジケーターは消えません。



^{モード}MODE ^{バイリンガル}BILINGUAL(モード/2ヶ国語)ボタン
FM放送やテレビ音声のステレオ、モノラルやテレビの音声多重(2ヶ国語)放送のとき、主音声、副音声を切替えます。

アンプ部

パワー POWERスイッチ

「ON」にすると電源が入ります。

グラフィック イコライザー GRAPHIC EQUALIZERツマミ

5つのつまみでお好みの音質に調整します。つまみを上に動かすと、その周波数付近の音が強くなり、下に動かすと弱くなります。すべてセンター(「0」)にするとフラットになります。

ミキシング MIXINGツマミ

マイクでミキシングするときに、マイクとソースの音量を調整します。

- 「SOURCE」の方へ動かすとマイクの音が小さくなります。
- 「MIC」の方へ動かすとソースの音が小さくなります。

通常はセンター(「0」)にしておいてください。

バランス BALANCEツマミ

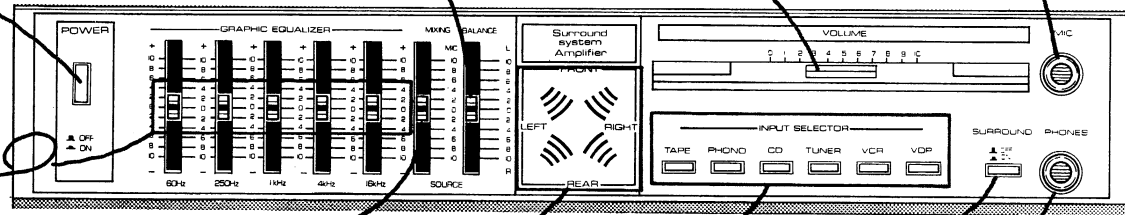
スピーカーやヘッドホンからでる左右の音の大きさのバランスを調整します。

ボリューム VOLUMEツマミ

音の大きさを調整します。右に動かすと大きくなり、左に動かすと小さくなります。

マイク MIC端子

マイクをつなぎます。



サラウンド SURROUNDインジケーター

SURROUNDボタンをONにすると4つのインジケーターが付き、OFFにするとフロント側の2つのインジケーターが付きます。

インプット INPUT SELECTORボタン

ソースを選択するボタンです。

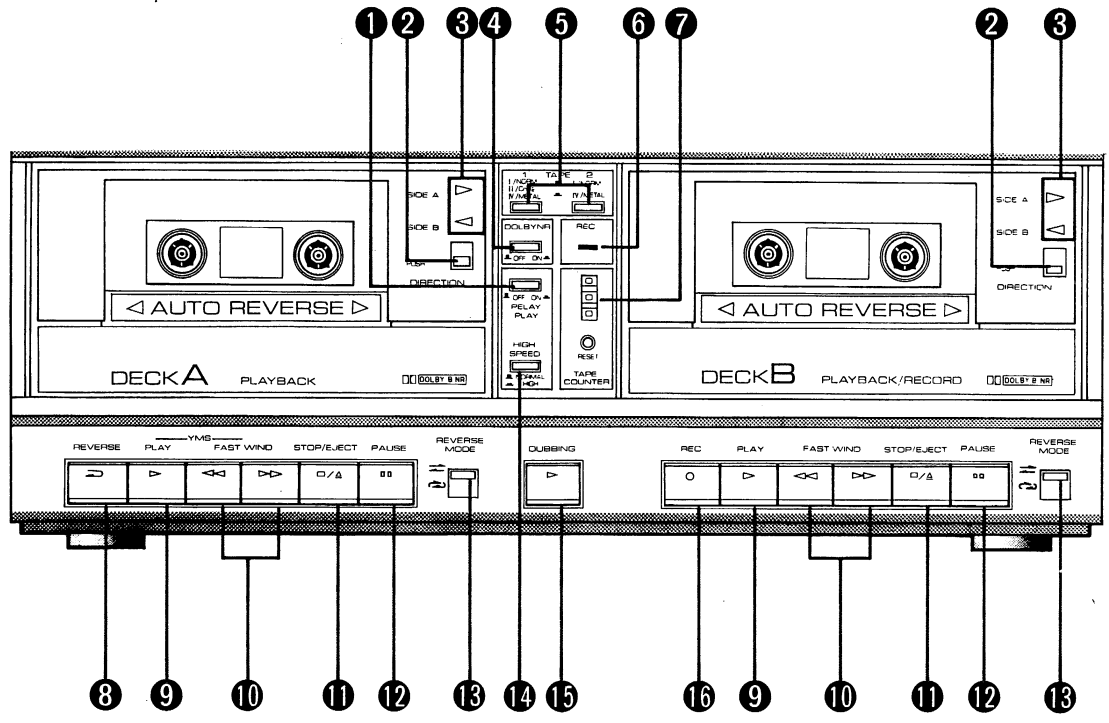
ホーンズ PHONES端子

ヘッドホンをつなぎます。

サラウンド SURROUNDボタン

劇場で聞く迫力と臨場感に似た音を楽しみたいときにこのボタンをONにします。(サラウンドを楽しむときは、さらにもう2台のスピーカーを接続してください。)

デッキ部



① ^{リレー}RELAY ^{プレイ}PLAY ボタン

DECK AからDECK Bへ連続再生するときに
"ON"にします。

② ^{ディレクション}DIRECTION ボタン

録音や再生する面を切換えます。
※DECK Aは再生のみ。

③ ^{サイド}SIDE A / ^{サイド}SIDE B インジケーター

再生している面を表示します。

A面を再生中はSIDE A、B面を再生中はSIDE B
が点灯します。

④ ^{ドルビー}DOLBY NR ボタン

DOLBY NRシステムを働かせるときに"**■** ON"し
ます。

⑤ ^{テープ}TAPE ^{セレクター}SELECTOR ボタン

DECK A、DECK Bで使うテープの種類に合わせま
す。

⑥ ^{レック}REC インジケーター

⑩ REC ボタンを押すとつきます。

⑦ ^{テープ}TAPE ^{カウンター}COUNTER


DECK Bを動かすと数字が変わります。

下の^{リセット}RESET ボタンを押すと、"000"になります。

⑧ ^{リバー}REVERSE ボタン

A面とB面の両面を1回だけ連続して聞くとときに押
します。

● ^{プレイ}PLAY ボタンも同時におります。

● ^{リバー}REVERSE ^{モード}MODE スイッチがの位置のとき
だけこの機能がはたらきます。

⑨ ^{プレイ}PLAY ボタン

テープを聞くとときに押します。

⑩ ^{ファースト}FAST ^{ワインド}WIND(早送り/早戻し) ボタン

テープを早送り/早戻しするときに押します。

(DECK Aでは再生中に押すと、テープの自動頭出し
動作(YMS)になります。)

⑪ ^{ストップ}STOP / ^{イジェクト}EJECT ボタン


テープを止めるときに押します。テープが止まっ
ているときに、このボタンを押すとカセットホルダー
があきます。


⑫ ^{ポーズ}PAUSE ボタン

再生や録音を一時的に停止するときに押します。

⑬ ^{リバー}REVERSE ^{モード}MODE スイッチ

片面演奏と両面連続演奏を切換えるときに押します。

: 片面演奏

: 両面演奏

⑭ ^{ハイ}HIGH ^{スピード}SPEED ボタン

ダビングのスピードを切換えるボタンです。

定速でダビングするときは"**■** NORMAL"に、倍速
でダビングするときは"**■** HIGH"にします。

⑮ ^{ダビング}DUBBING ボタン

テープをダビングするときに押します。

⑯ ^{レック}REC ボタン

録音するときに押します。

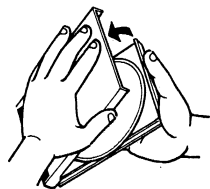
(PLAY ボタンも同時におります。)

CD(コンパクトディスク)の取り扱い方

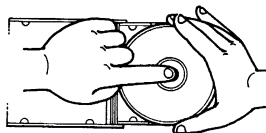
 マークのあるCDをお使いください。

ケースからの取り出しかた

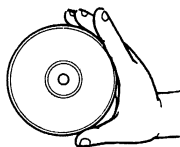
1. 右手でケースの両横側面を支え、左手で上下側面を持ってフタを開きます。



2. 左手の指先でケースのセンターホルダーを押さえ、右手でCDを持ち上げます。



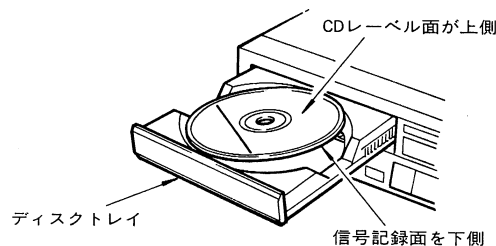
3. できるだけCDの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。



CDのセット

CDのセットは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。(CDの演奏は片面だけです)

市販のCD用スタビライザーなどの使用は、ディスクを傷つけるだけでなく故障の原因になることがありますのでご使用にならないでください。



取り扱いの注意

- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布などで軽く内側中心から外側へ放射状に拭いてください。CDには、レコード盤のような音溝はありません。ほこりや汚れがついたら柔らかい布で軽く拭き取るだけで充分です。多少のほこりや汚れは、音質には全く影響ありません。



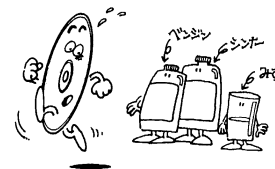
- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。



- 演奏を終わったCDは必ずケースに入れて保管してください。



- レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。CDはプラスチック製です。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

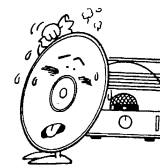


- 曲げたりしないでください。



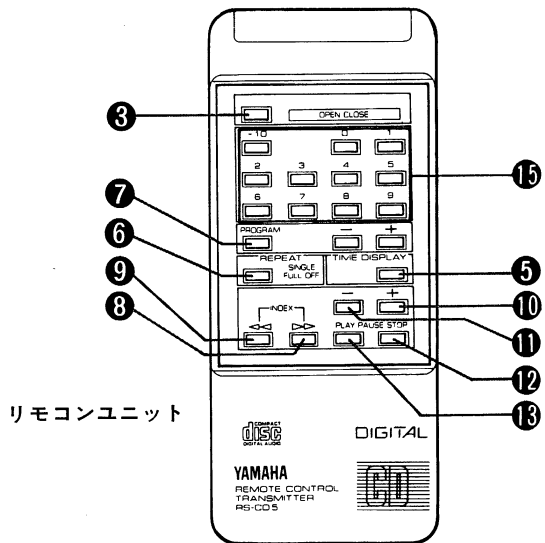
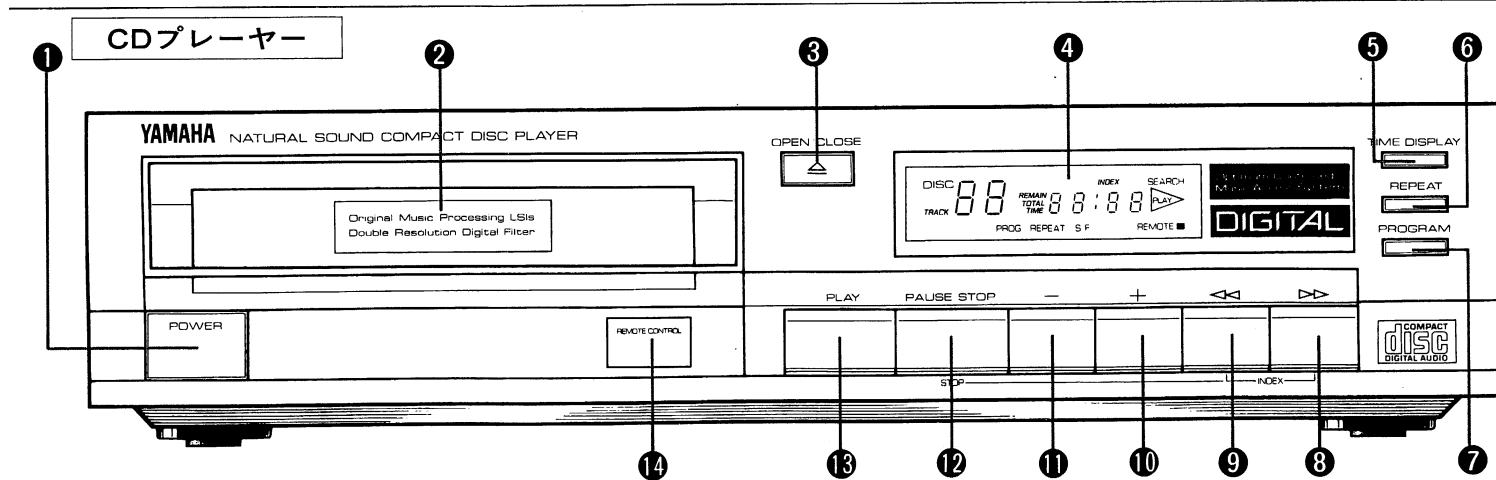
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所へ長時間置かないでください。

CDを高温な場所に長時間放置すると変形などの原因となります。



- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。





①POWERスイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。

②ディスクトレイ

ディスクをセットするところです。^{オープン}OPEN/^{クローズ}CLOSEキー③を押すと開き、もう一度押すと閉まります。

ディスクトレイは手で軽く押しても、あるいは^{プレイ}PLAYキー⑬を押しても閉じることができます。

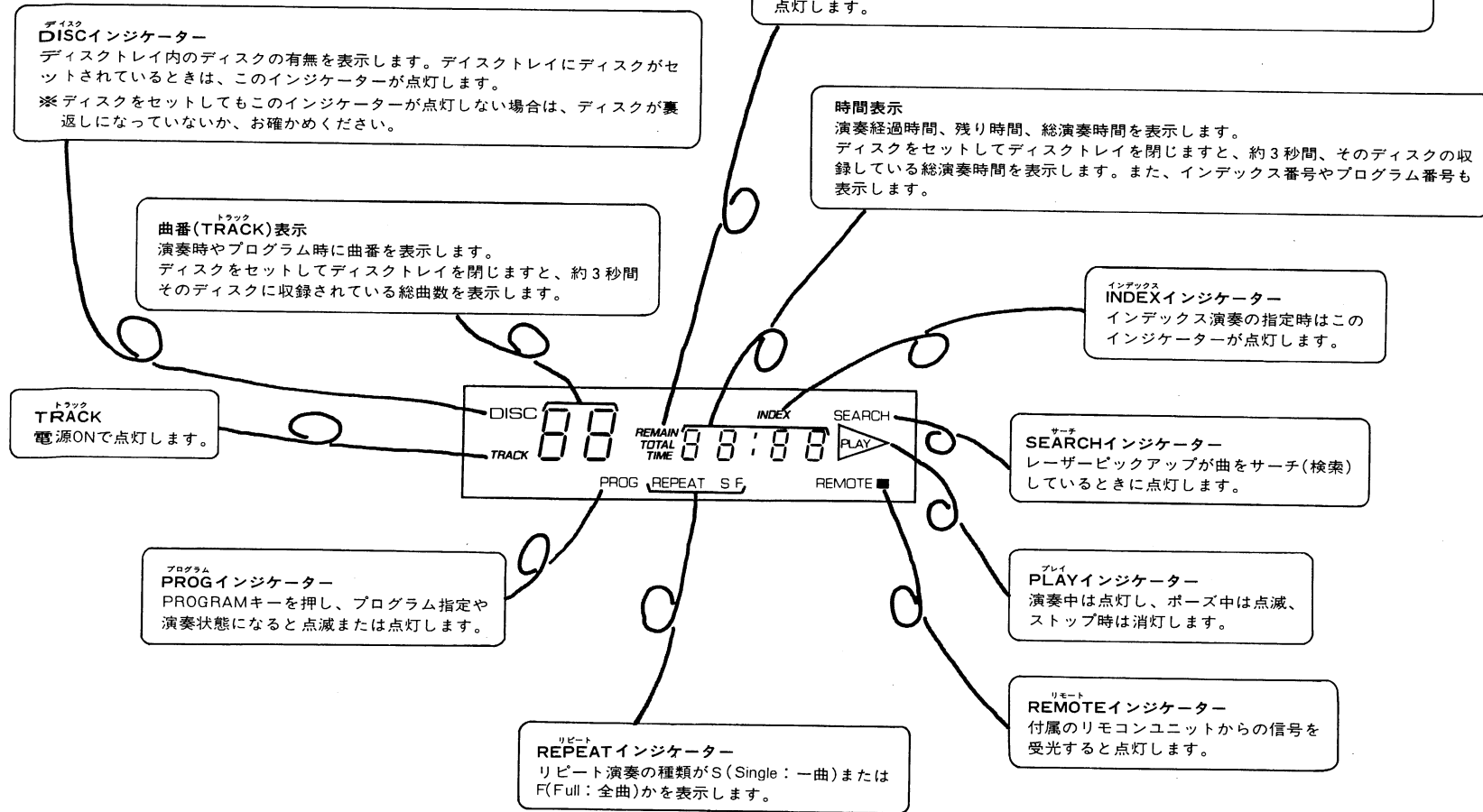
※電源がONの状態であれば、ディスクトレイの開閉はできません。

③OPEN CLOSEキー

ディスクトレイを開閉させるキーです。一度押すと開き、もう一度押すと閉じます。

④ ディスプレイ

演奏時間や演奏モードを表示します。



⑤ タイム ディスプレイ TIME DISPLAYキー

時間表示のモードを切り替えるキーです。

TIME(演奏経過時間)表示中に一度キーを押すと、表示はREMAIN TIME(残り時間)に変わり、もう一度押すとTOTAL TIME(総演奏時間)表示に変わります。さらに押しますと演奏経過時間表示に戻ります。

⑥ リピート REPEATキー

リピート演奏をするときに押します。一度押しますと一曲リピート、もう一度押しますと全曲リピートになります。さらに押しますと解除されます。

⑦ プログラム PROGRAMキー

プログラム演奏をセットするときやチェックするときに使います。(→P36「CDのプログラム演奏」)

⑧ 早送り キー

演奏を早送りさせるキーです。

演奏時 : 音出し早送り

ポーズ時 : 音無し早送り

ストップ時: インデックス番号の指定ができます。

※押し続けると高速で早送りします。

⑨ 早戻し キー

演奏を早戻しさせるキーです。

演奏時 : 音出し早戻し

ポーズ時 : 音無し早戻し

ストップ時: インデックス番号の指定ができます。

※押し続けると高速で早戻しします。

⑩ プラス キー

一曲ずつ次の曲の頭に進めるキーです。

演奏時 : 次の曲の頭から演奏

ポーズ時 : 次の曲の頭でポーズ

ストップ時: 次の曲の頭で演奏待機

※押し続けると連続的に変化します。

⑪ マイナス キー

演奏またはポーズしている曲の頭に戻すキーです。

曲の頭でポーズしている場合は、前の曲の頭に戻ります。

演奏時 : その曲の頭から演奏

ポーズ時 : その曲の頭でポーズ

ストップ時: 変化しません

※押し続けると連続的に変化します。

⑫ ポーズ / ストップ PAUSE / STOPキー

演奏中にこのキーを一度押しますと、その箇所ポーズ(一時停止)し、もう一度押すとストップ(ディスクの1曲目の頭に戻り停止)します。

⑬ プレイ PLAYキー

演奏をスタートさせるキーです。

⑭ リモート コントロール REMOTE CONTROL受光窓

リモコンユニットからの信号(赤外線)を受光する窓です。正しく受光しますと、REMOTE CONTROLのインジケーターが点灯します。

リモコンユニット

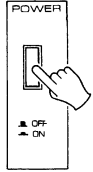
⑮ テン 10キー

1から0までそして+10の数字キーです。演奏曲番をダイレクトに指定することができます。

●リモコンユニットのその他のキーは本体のキーと同様の機能を持っています。


ご希望のソースを再生するには

1 本機および希望ソースの電源を入れます。



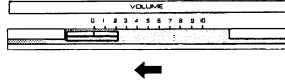
A hand is shown pressing the 'ON' side of a power switch labeled 'POWER'. The switch has 'OFF' and 'ON' markings.

2 MIXINGツマミを“0”の位置にします。

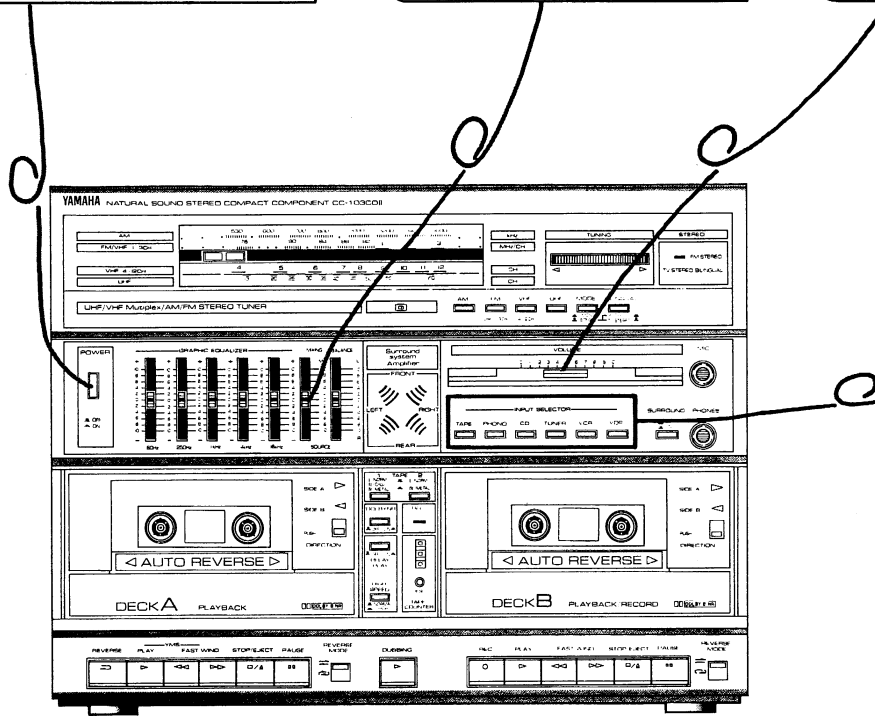


A vertical slider knob labeled 'MIXING' is shown with '0' at the bottom and '100' at the top. The slider is positioned at the '0' mark. Below the knob is the label 'SOURCE'.

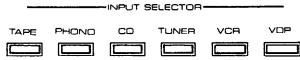
3 VOLUMEツマミを“0”にします。



A horizontal slider knob labeled 'VOLUME' is shown with '0' at the left end and '100' at the right end. The slider is positioned at the '0' mark. An arrow points to the left towards the '0' mark.



4 ご希望のソースをINPUT SELECTORボタンで選びます。



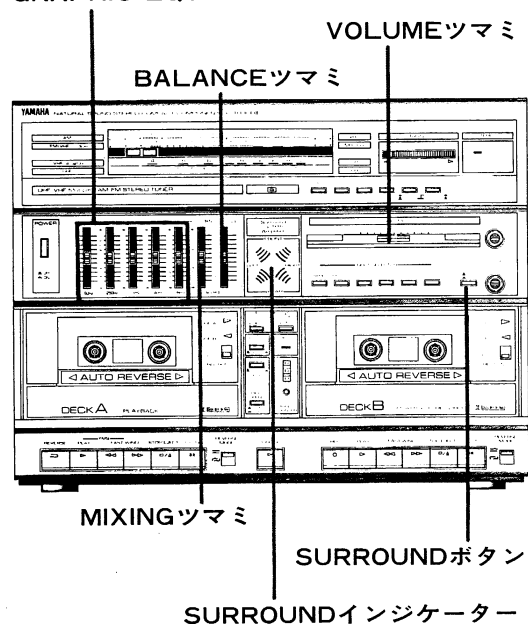
Buttons for 'INPUT SELECTOR' are shown, labeled 'TAPE', 'PHONO', 'CD', 'TUNER', 'VCR', and 'VDP'.

5 希望ソースの再生を始めます。
(希望ソースの操作は、各々の取扱説明書を参照して行なってください。)

6 お好みに合わせて音質、音量を調節してください。
(p.18ページ)

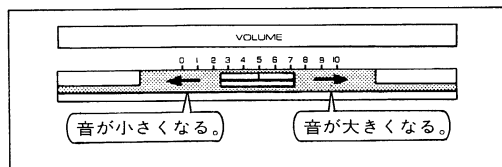
音質や音量を調整するには

GRAPHIC EQUALIZERツマミ



■ VOLUMEツマミ

スピーカーやヘッドホンからでてくる音の大きさを調整します。
右に動かすと大きくなり、左に動かすと小さくなります。



■ GRAPHIC EQUALIZERツマミ

5つのツマミでお好みの音質に調整します。

ツマミを上動かすと、その周波数付近の音が強くなり、下に動かすと弱くなります。
すべてセンター(0°)にすると、フラットになります。

60Hz

音に安定感を加え、ベースギターやドラムなどの低音部の魅力をひきだす音域です。

250Hz

人の音や音楽再生の基礎になる音域で、強調させるとパンチのある音になります。

1 kHz

ピアノや管楽器または人の高い声を調節する音域で、強調させるとハリのある音になります。

4 kHz

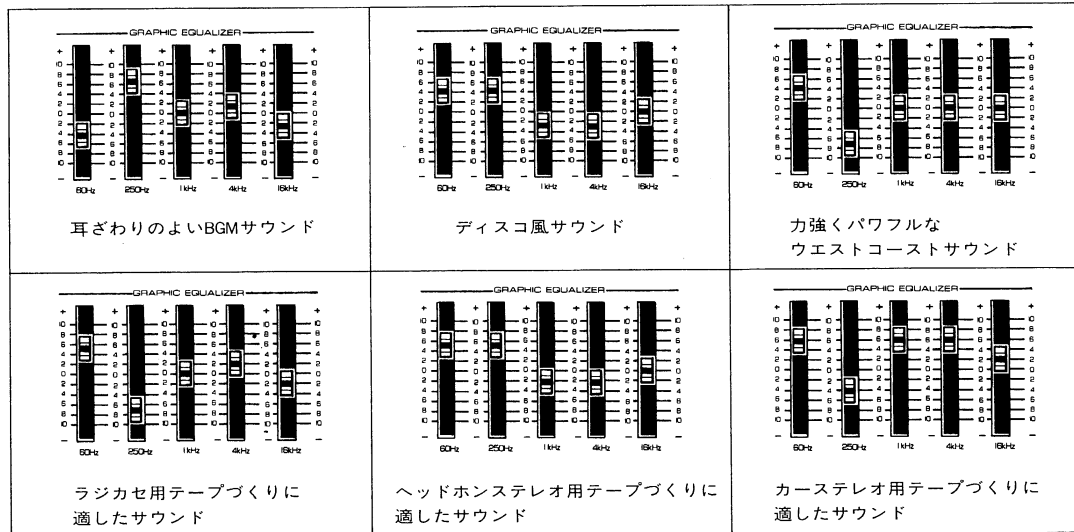
バイオリンなど弦楽器のハリ、華やかさを調節でき、人の耳には刺激的に感じる音域です。

16kHz

シンバルやトライアングルなどの、ハギレの良い澄んだ高音部の響きが調節でき、人の耳には刺激的に感じる音域です。

このグラフィックイコライザーは、聞くときだけでなく、録音するときにも働きます。

具体的な使用例



サラウンドについて

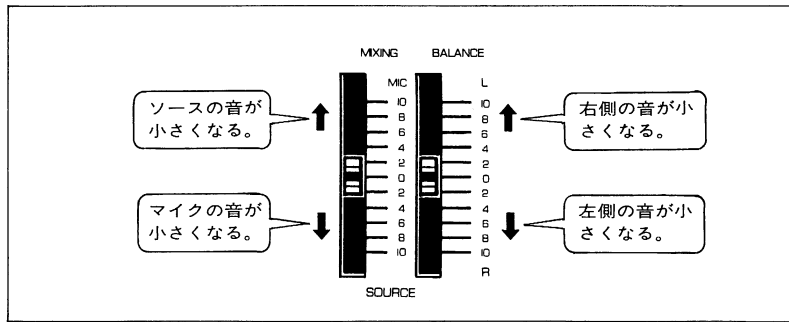
■BALANCEツマミ

スピーカーやヘッドホンからでる左右の音の大きさのバランスを調整します。通常はセンター("0")にしておきます。

- リア用のスピーカーには動きません。

■MIXINGツマミ

マイクでミキシングするときに、MICとSOURCEの音量を調整します。



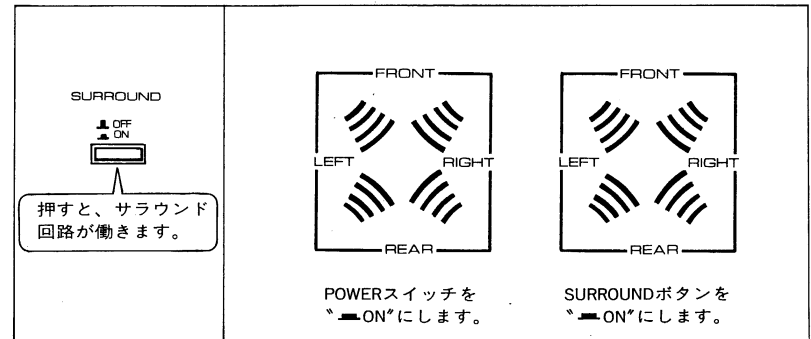
- マイクを使わないときは、MIXINGツマミを"0"の位置にしてください。

劇場で聞く迫力と臨場感やコンサートホールでの音場感に似た音を楽しみたいときにこのボタンを押します。

■SURROUNDインジケータ

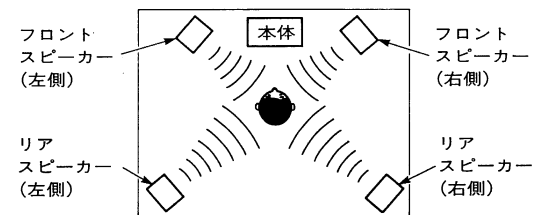
POWERスイッチを"ON"にするとFRONT側がつきます。このあと、SURROUNDボタンを"ON"にすると、REAR側もつきます。

(SURROUNDボタンを"OFF"にしてもリアスピーカーから音が出ます。)



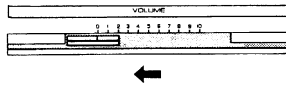
リアスピーカーの置きかた

- サラウンドを楽しむときは、さらにもう2台のスピーカーを接続してください。

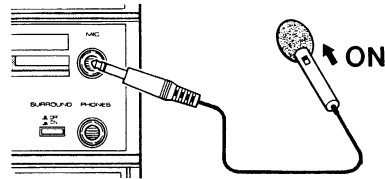


マイクとソースのミキシング

- 1** VOLUMEツマミを
"0"にします。



- 2** マイクをつなぎます。
マイクのスイッチを"ON"にします。



- 3** お望みのソースを演奏します。

CDのとき

CDを演奏します。

(☞13ページ)

ラジオ放送やテレビ音声のとき

ラジオ放送やテレビ音声を受信します。

(☞21ページ)

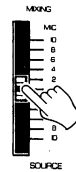
テープのとき

DECK Aを再生します。

(☞23ページ)

- ソース側の音の大きさは、VOLUMEツマミで調整します。
- 倍速ダビング中はマイクを使わないでください。

4

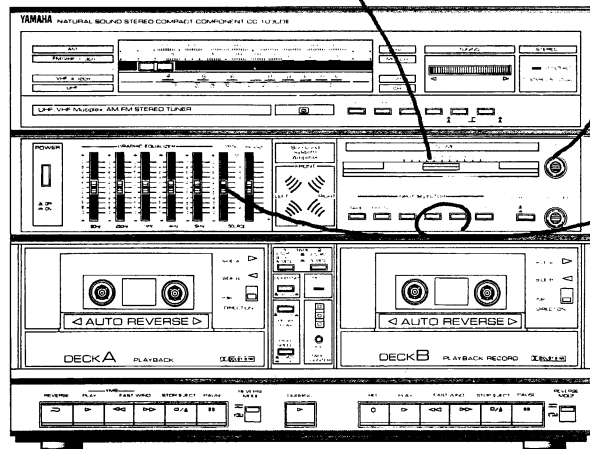


マイクに向かって歌いながらマイクの音とラジオ放送やテレビ音声の音量のバランスをMIXINGツマミで調整します。

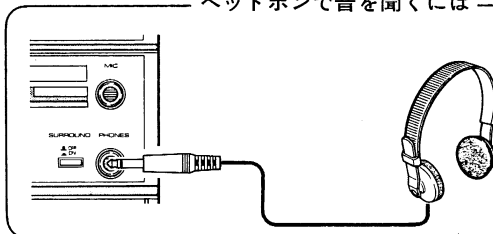
- 録音したいときは、29ページの操作をします。

お願い

- マイクは標準プラグ(直径6.3mm)付で、インピーダンス400Ω～3kΩ、感度-74dB前後のものをお使いください。
- マイク音はステレオになりません。(左右のスピーカーの中央から音が聞こえます。)
- 「キーン」というハウリングが起きたときはVOLUMEツマミを下げるか、マイクをスピーカーから遠ざけます。
- 感度の高いマイクや無指向性マイクを使うと、ハウリングを起こしやすくなります。



ヘッドホンで音を聞くには

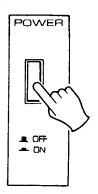


インピーダンス8Ω～32Ω、ステレオ標準プラグ(直径6.3mm)付ヘッドホンをPHONES端子につなぎます。スピーカーの音は聞こえなくなります。

音の大きさはVOLUMEツマミで調整します。

ラジオ放送やテレビ音声を聞くには

1 電源を入れます。



4 バンド切換ボタンで希望の放送バンドに切換えます。*1

AM

FM

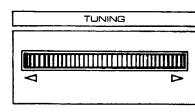
VHF

UHF


VHF 3CH 4-2CH

FMやテレビのステレオ放送、テレビの音声多重放送を受信するときは、次ページを参照してMODE/BILINGUALボタンを操作してください。

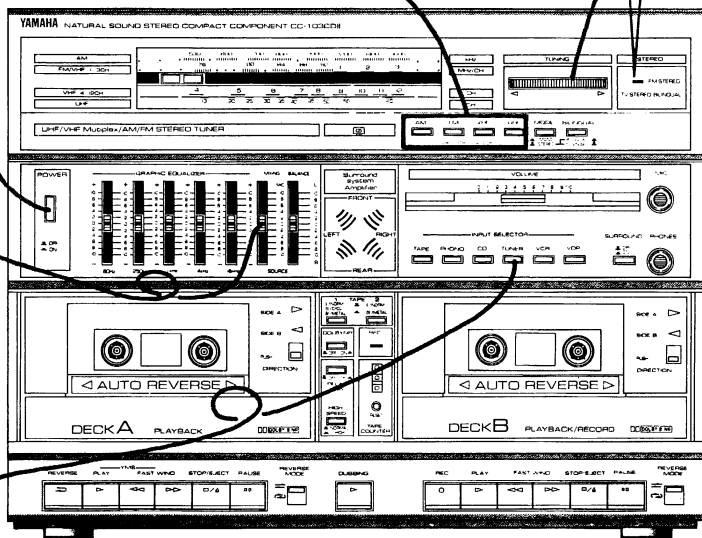
5 放送局を選びます。




2 MIXINGツマミを“0”の位置にします。







6 お好みに合わせて音質、音量を調整してください。(P.18ページ)



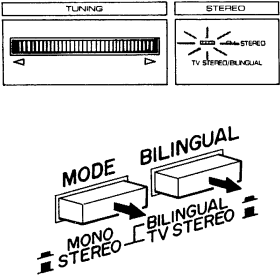
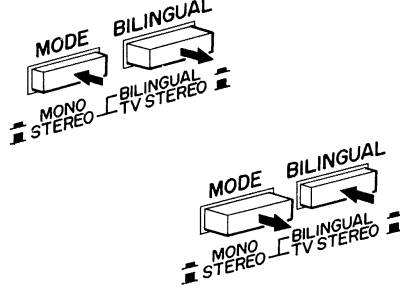
3 INPUT SELECTORボタンの“TUNER”を押します。



***1 バンド切換ボタンについて**

AM放送を聞くときは	FM放送や、テレビの1～3チャンネル(VHF放送)の音声を聞くには
	
テレビの4～12チャンネル(VHF放送)を聞くときは	テレビの13～62チャンネル(UHF放送)を聞くときは
	


■MODE/BILINGUAL(モード/2ヶ国語)ボタンについて

FMステレオ放送を受信したとき	テレビのステレオ放送を受信したとき	テレビの音声多重放送を受信したとき
 <p>MODEボタンを“ ■ STEREO”にします。 電波が弱く雑音が多いときは“ ■ MONO”にします。 (ステレオでは聞けませんが聞きやすくなります。) “ ■ STEREO”の位置では、電波が弱い場合ミュート ィングが働いて、音声聞こえないことがあります。</p>	 <p>MODEボタンを“ ■ STEREO”に、BILINGUALボタ ンを“ ■ TV STEREO”にします。 電波が弱く雑音が多いときはMODEボタンを“ ■ MONO”にします。(ステレオでは聞けませんが聞きや すくなります。)</p>	 <p>MODEボタンを“ ■ MONO”にすると、主音声だけ聞こ えます。 (BILINGUALボタンを押しても関係ありません。) MODEボタンを“ ■ STEREO”に、BILINGUALボタ ンを“ ■ BILINGUAL”にすると、左スピーカーから主 音声、右スピーカーから副音声聞こえます。 BALANCEつまみで主音声と副音声のバランスを調整 します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●主音声……番組本来の音声(日本語など) ●副音声……番組をより充実させるための音声(外国 語や、主音声を補うための解説など)

- テレビのステレオ放送や音声多重放送を受信したとき、主音声と副音声がまざって聞こえたり、右のスピーカーから聞こえる音が小さくなったときは、BILINGUALの切り換えが反対になっていますので、正しく設定しておいてください。
- CDプレーヤーのPOWERスイッチが入っていると、ラジオ放送やテレビ音声の受信に妨害を与えることがあります。そのときは、CDプレーヤーの電源スイッチを切ってください。

テープを再生するには


1 電源を入れます。



2 MIXINGツマミを
"0"の位置にします。

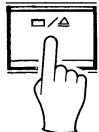


3 INPUT SELECTORボタンの
"TAPE"を押します。

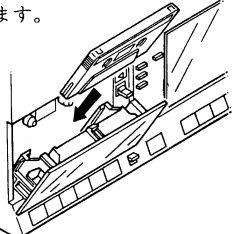


5

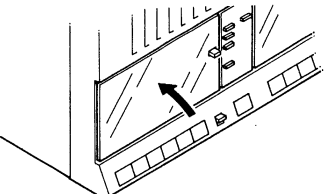
1. STOP/EJECTボタンを押します。



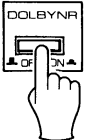
2. お聞きになりたい面を手前にしてテープを入れます。



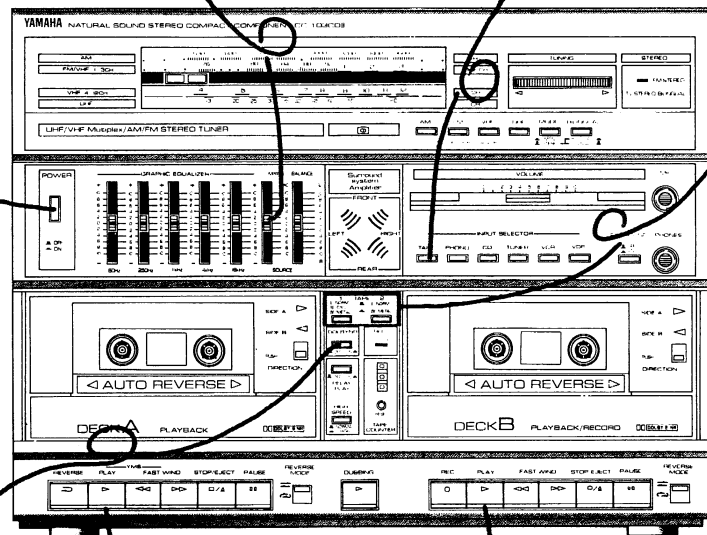
3. カセットホルダーを閉じます。



6

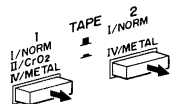
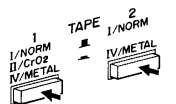


ドルビー NR システムで録音されたテープ("Dolby NR"や"NR"のマークのついたミュージックテープなど。)を聞くときは、ドルビーNRボタンを"ON"にします。



4

TAPE SELECTORボタンを使うテープの種類に合わせます。

<p>ノーマル(Normal) またはLow-noise テープ</p>	
<p>クロム(CrO₂)または メタル(Metal) テープ</p>	

■テープ再生を止めるには

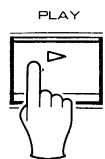
- ①STOP/EJECTボタンを押してテープの再生を止めます。
- ②もう一度STOP/EJECTボタンを押すとカセットホルダーが開きますので、カセットテープを取り出してください。

■テープ再生を一時停止するには

- ①PAUSEボタンを押して、テープ走行を一時停止します。
- ②再びテープ再生を行なうときは、PAUSEボタンをもう一度押します。

7

テープを入れた方のPLAYボタンを押します。

**8**

テープを入れた方のREVERSE MODEスイッチとDIRECTIONボタンを、ご希望の位置に切換えます。
(☞11/12ページ)

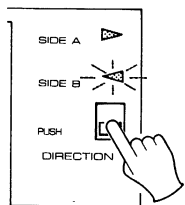
9

お好みに合わせて音質、音量を調節してください。
(☞18ページ)

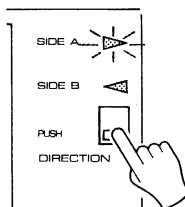
テープのリバース再生

■今聞いている面の反対側を聞くには

DIRECTIONボタンを、テープ再生中か再生を一時停止しているときに押します。



A面再生中にB面を聞きたいときは、DIRECTION ボタンを押します。「◀」のインジケーターがつかます。

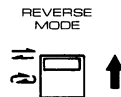


B面再生中にA面を聞きたいときは、DIRECTION ボタンを、もう一度押します。「▶」のインジケーターがつかます。

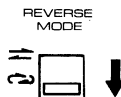
- REVERSE ボタンを押してB面を再生しているときに DIRECTION ボタンを押すと、自動的に停止します。

■ REVERSE MODE スイッチについて

REVERSE MODEスイッチは、テープを再生中でも、再生を始める前でも切換えることができます。



この位置にすると、今聞いている面の再生が終わると、自動的にテープが止まります。



この位置にすると、くりかえしてA面・B面を再生します。テープを止めたいときは、STOP/EJECT ボタンを押します。

■ A・B両面を1回だけ連続して聞くには (DECK A)

DECK AのREVERSEボタンを使うと、A面からB面*1へ再生したあと、自動的に停止させることができます。

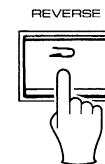
(B面からA面へはできません。)

1



「◀」の位置にします。
(「▶」の位置では片面しか再生しません。)

2



DECK Aが停止しているときにREVERSEボタンを押します。(PLAYボタンも同時におります。)

3

A面の再生が終ると、自動的にB面を再生し、B面を最後まで再生すると、自動的に停止します。

メモ

- DECK AとDECK Bの使い方
DECK A ➡再生専用です。(テープを聞くときだけ使います。)
DECK B ➡録音や再生をするときに使います。 } DECK AとDECK Bを同時に再生したときは、DECK Aの音が優先されます。
- RELAY PLAYボタンが「ON」のとき、DECK Aを先に再生すると、DECK A再生中はDECK Bは動きません。DECK Bを再生中でもDECK Aは動き、DECK Aの音が優先されます。
- この製品は、カセットテープを入れて▶PLAYボタンを押すと、手前に見える面(A面)から再生を始め、そのあと、反対の面を再生します。

*1:取扱説明書内では、説明をわかりやすくするために、手前に見える面を「A面」、反対の面を「B面」と表現しています。カセットテープを入れるときに、テープのA面を手前にして入れると本文の説明方法と一致します。

テープのリレー再生

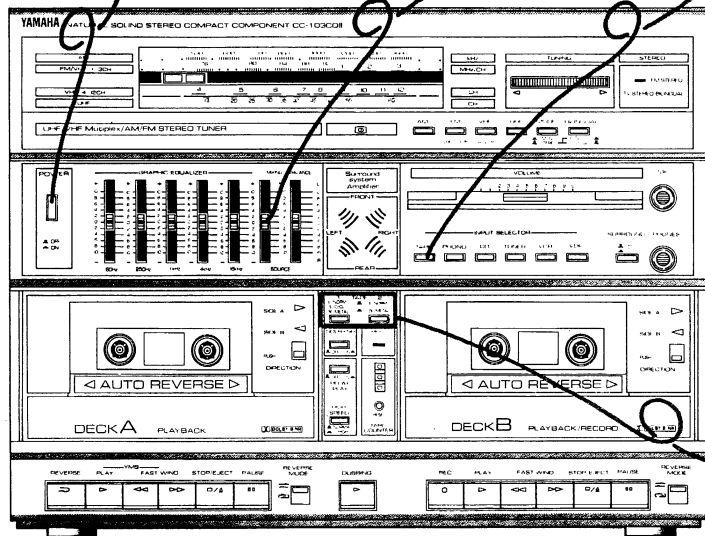
DECK Aを再生後、連続してDECK Bを再生(リレー再生)することができます。
リレー再生は、A面のみのもと、両面とも行なうものと2種類あります。

■DECK A、DECK BのA、B両面をリレー再生するには

1 POWERスイッチをON にします。

2 MIXINGツマミを"0"の位置にします。

3 INPUT SELECTORボタンの"TAPE"を押します。




4 両方にテープを入れます。

5 TAPE SELECTOR ボタンを使うテープの種類に合わせます。
(☞24ページ)

1		TAPE		2	
	1/NORM		1/NORM		1/NORM
	II/CO2		IV/METAL		IV/METAL


6

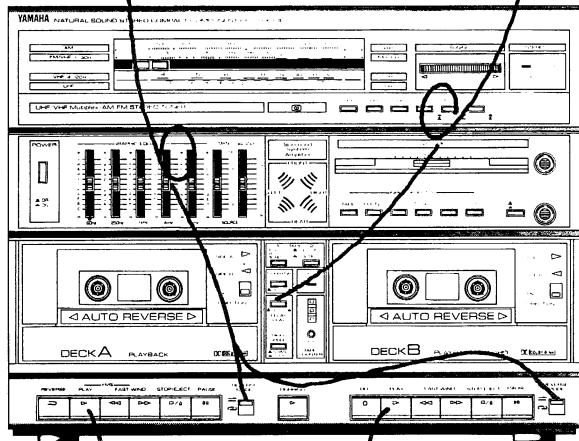
DECK AとDECK B双方のREVERSE MODEスイッチを""の位置にします。



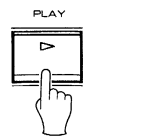
7



RELAY PLAYボタンを""にします。

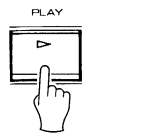


8



DECK AのPLAYボタンを押します。

9




DECK Aを再生中に、DECK BのPLAYボタンを押します。

- DECK A・BのA面を、それぞれ再生し終わると、停止状態になります。
- B面だけのリレー再生はできません。

■DECK A、DECK BのA、B両面をリレー再生するには

●26ページの手順①～⑤を行なってから次の⑥～⑨の操作を行なってください。

6

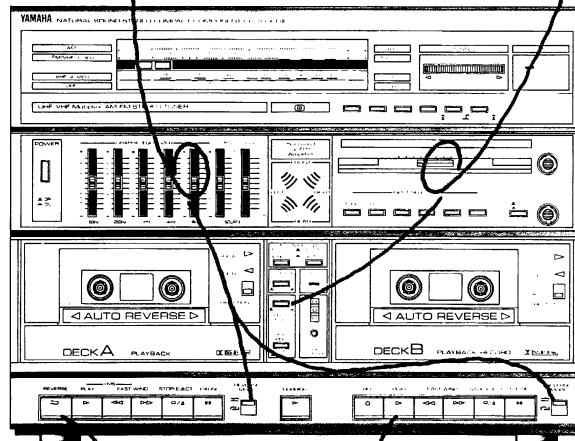
DECK AとDECK B双方のREVERSE MODEスイッチを""の位置にします。



7



RELAY PLAYボタンを""にします。

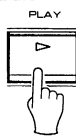


8



DECK AのREVERSEボタンを押します。(PLAYボタンも同時におります。)

9

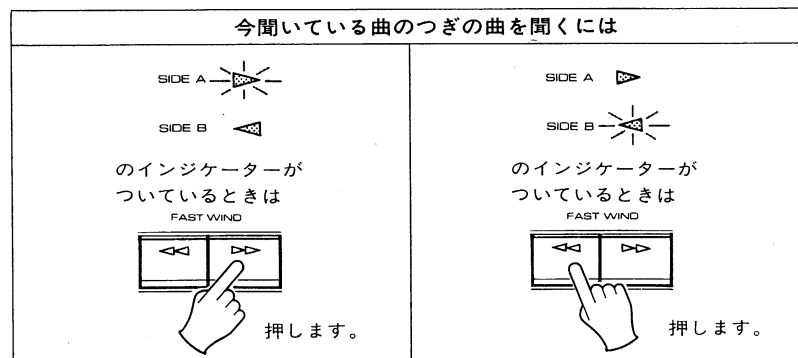
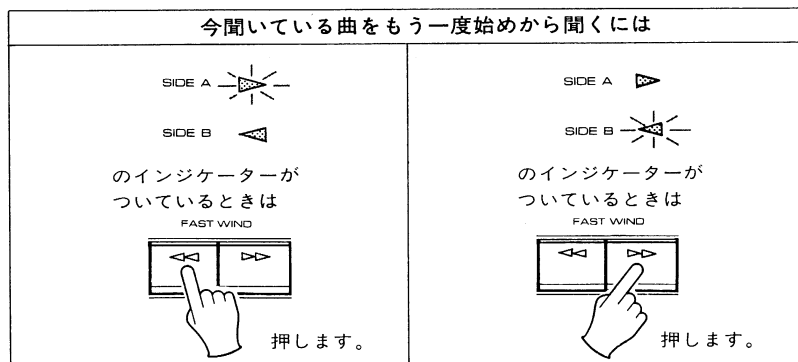


DECK Aを再生中にDECK BのPLAYボタンを押します。

- DECK AはSTOP/EJECTボタンを押すまで、A・B両面を連続再生します。

テープの自動頭出し演奏(YMS:YAMAHA Music Search)

自動頭出し演奏(YMS)は、DECK Aで再生している曲の頭出しを自動的に行ない演奏する機構です。



数曲先や数曲あとの曲を頭出しするには

YMS操作で再生状態になったあと、すばやくFAST WINDボタン(◀または▶)を押します。

お望みの曲が出るまでこの操作をくり返します。

YMSが正しく動作しないときは

YMS機構はミュージックテープの約4秒間の無録音部分を見つけだすことによって動作します。

つぎのようなテープを使ったときは正常に動作しないことがあります。

- 会話、落語などで音声途切れているテープ。
- 曲全体の録音レベルが低すぎる(音が小さい)テープ。
- 曲間が短い(約4秒以下)テープ。
- 音楽でピアノシモの部分(音が非常に小さい部分)が長く続く曲や、演奏や歌声が全く入っていない部分のあるテープ。
- 曲間に大きな雑音録音されているテープ。

※ YMS中にDIRECTIONボタンを押さないでください。

(押すとYMSが解除され反対の面の再生に切り替わります。)

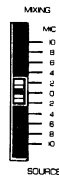
録音するには

1

17ページの“ご希望のソースを再生するには”を参照して録音したいソースの演奏または受信を行なってください。

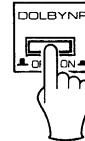
2

MIXINGツマミを“0”の位置にします。



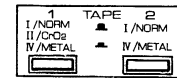
3

DOLBY NR システムで録音するときは、DOLBY NRボタンを“ON”にします。



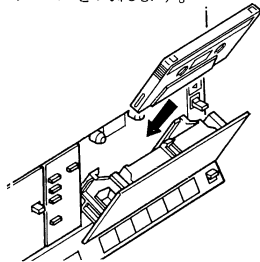
4

TAPE SELECTORボタンを使うテープの種類に合わせてください。(※24ページ④)



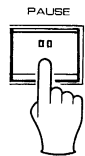
5

テープを入れます。



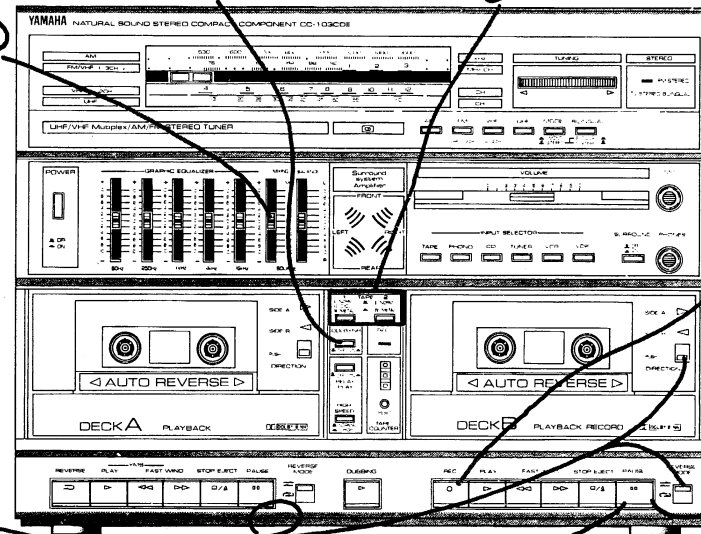
6

PAUSEボタンを押します。



7

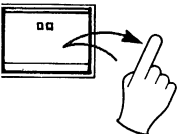
DECK BのREVERSE MODEスイッチとDIRECTIONボタンをご希望の位置に切換えます。(※11/12ページ)



8 RECボタンを押します。
(PLAYボタンも同時におり、録音スタンバイ状態となります。)



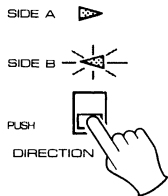
9 録音したい曲が始まる少し前に、PAUSEボタンを押して、録音を開始します。



- テープが最後まで巻き取られると、自動的にボタンがもどります。(フルオートストップ機構)
- 途中でテープを止めたいときは、STOP/EJECTボタンを押します。

■今録音している面の反対側に録音するには(DECK Bのみ)

DIRECTIONボタンを、録音中か録音スタンバイ中に押します。

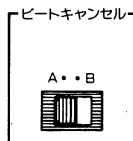


A面を録音中か録音を一時停止しているときにB面を録音したいときは、DIRECTIONボタンを押します。
"◀"のインジケーターがつかます。

B面録音中にDIRECTIONボタンを押すと、RECボタンとPLAYボタンがもどり、録音が停止します。

- 録音中は、DOLBY NRボタンを切換えないでください。録音が正しくできなくなります。

■AM放送を録音中にビート音が出たら



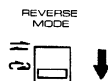
リアパネルのビートキャンセルスイッチを"A"または"B"のうち、ビート音が少なくなる方に切換えます。

■REVERSE MODEスイッチについて

REVERSE MODEスイッチは、テープを録音中でも、録音を始める前でも切換えることができます。



この位置にすると、今録音している面が終わると、自動的にテープが止まります。



この位置にすると、連続してA面・B面に録音したあと、自動的にテープが止まります。

- "↺"の位置でB面からA面への録音はできません。

メモ

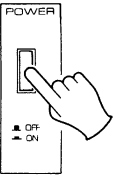
- あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 録音レベルは、自動録音レベル調整(ALC)回路によって、自動的に調整されます。録音中にVOLUMEツマミを動かしても録音には影響しません。

ダビングをするには

ダビング(複写録音)とは、テープから別のテープへ録音することをいいます。

本機は、HIGH SPEEDボタンとDUBBINGボタンを使ってDECK Aで再生した音をそのままDECK Bへ定速、または倍速でダビングすることができます。ダビングのときは、DECK AとDECK BともにA面から始まります。


1 POWERスイッチをON にします。



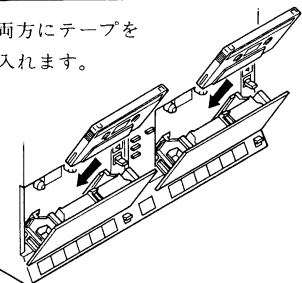
2 MIXINGツマミを"0"の位置にします。



3 INPUT SELECTORボタンの"TAPE"を押します。

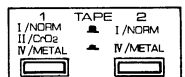
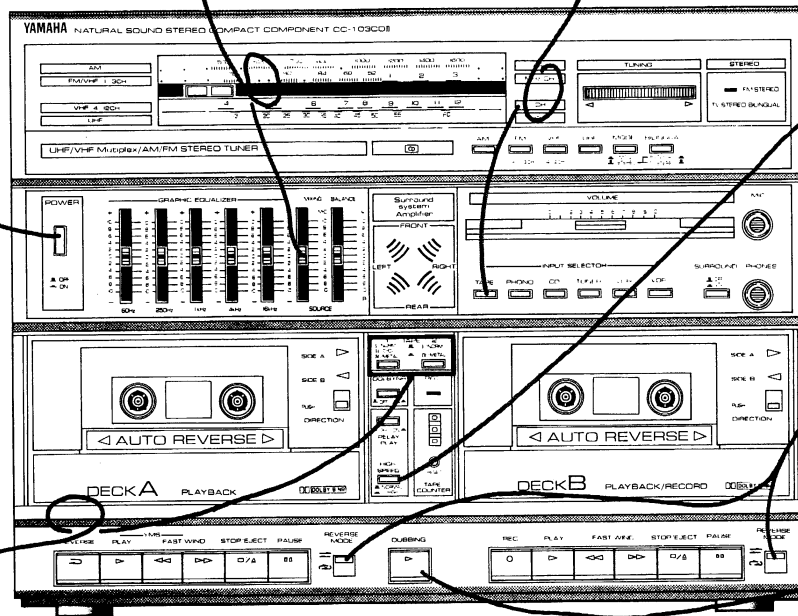


4 両方にテープを入れます。



5 TAPE SELECTORボタンを使うテープの種類に合わせます。
([p.24](#)ページ④)

1	TAPE 2
I/NORM	I/NORM
II/COQ	▲ I/NORM
IV/METAL	▼ IV/METAL

6



HIGH SPEEDボタンを“**▲** HIGH”または“**■** NORMAL”にします。
HIGHにすると倍速ダビング、NORMALにすると定速ダビングとなります。

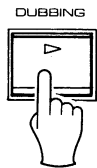
7

REVERSE MODEスイッチを切替えます。
(▶12ページ)



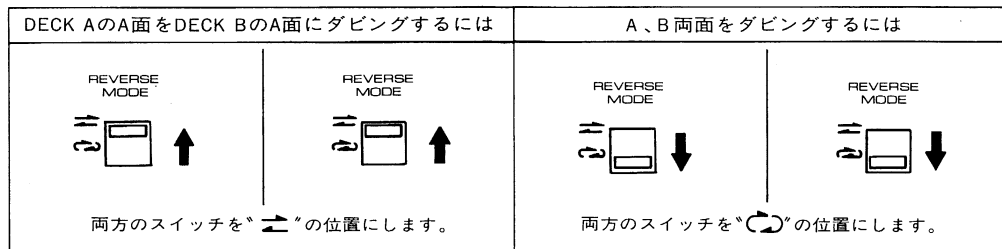
8

DUBBINGボタンを押します。



- DECK AとDECK Bが同時にスタートし、ダビングが始まります。

■REVERSE MODEスイッチについて



■テープに録音された音を消すには

録音ずみのテープに録音すると、前の録音は自動的に消され新しい録音だけが残りま
す。新しい録音をしないで前の録音だけを消したいときは、つぎの操作をします。

- MIC端子には何もつながないでください。

INPUT SELECTORボタンの“TAPE”ボタンを押したあと、テープをDECK Bのカ
セットホルダーに入れてRECボタンを押します。

メモ

- ダビングのときはDOLBY NRボタンを押しても働きません。
- 倍速ダビング中はグラフィックイコライザーは働きません。
- RELAY PLAYボタンを“**■** OFF”にしておけばDECK A再生中にDUBBINGボタンま
たはRECボタンを押してもダビングはできますが、RELAY PLAYボタンが
“**▲** ON”になっていると連続機能が優先されダビングはできません。
- ダビング中にHIGH SPEEDボタンを押さないでください。複写録音が正しく働か
ないことがあります。
- 両面録音が終了してもDECK Aは再生状態です。再生をやめるときは、STOP/
EJECTボタンを押します。

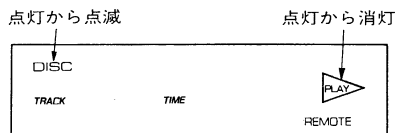
CDを演奏するには

リモコンユニットで操作するときは、対応するキーをお使いください。

- コンパクトディスクは従来のアナログレコードやテープ再生時のような演奏前のノイズがほとんどありません。演奏スタートと同時に巨大音量となることがありますので、事前にアンプのボリュームの位置にご注意ください。

1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。

- POWERスイッチのON/OFFを極端に早く繰り返しますと、内部動作が正しく行われなことがあります。

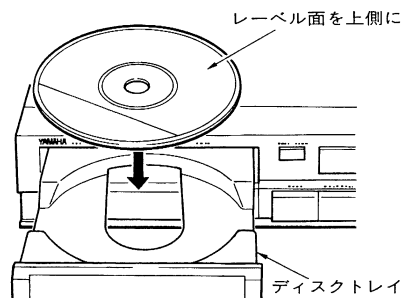


2 OPEN/CLOSEキーを押し、ディスクトレイを開けます。

- ディスクトレイが開いている状態では、OPEN/CLOSEキー、PLAYキーのほかにも、+、-キーの操作、インデックス番号の指定およびリモコンユニットによる演奏曲番の指定が可能です。

3 ディスクをケースから取り出し、レーベル面を上にしてディスクトレイに入れます。(→P13の「コンパクトディスクの取り扱い」をご参照ください。

※レーベル面の反対側が音の記録面です。(ディスクの記録面は片面だけです)

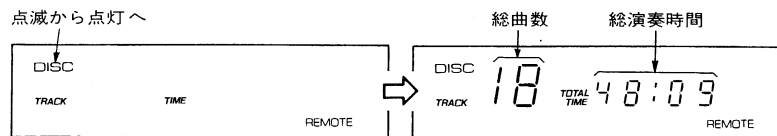


4 OPEN/CLOSEキーを押します。

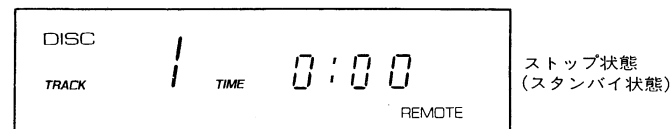
ディスクトレイが閉まり、本機がディスクの取められている情報を読み込む数秒間、DISCインジケータが点滅、その後点灯に変わります。ディスプレイはそのディスクに取められている総曲数と総演奏時間を約3秒間表示した後、ストップ状態になります。

- ディスクをセットしてもDISCインジケータが点滅後消灯し、曲番0を表示するときは、ディスクが裏返しになっていないか確認してください。

例 総曲数18曲、総演奏時間48分9秒



約3秒後



ディスクトレイの閉めかたには、3通りあります。

- ・OPEN/CLOSEキーを押す。
- ・PLAYキーを押す。
- ・ディスクトレイを軽く押す。

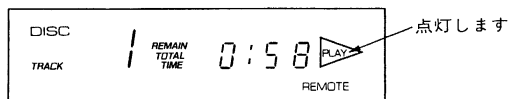
ご注意

- ディスクトレイに不要物などを入れると故障の原因になります。
- ディスクトレイが動作している間は、手で無理に開閉しないでください。
- 本機を寒い部屋から、急に暖かい部屋に移したりしますとピックアップ部に結露を生じ、正常に動作しないことがあります。そのようなときは電源をいれたまましばらく(約数10分)待ってから操作してください。

5 PLAYキーを押します。

PLAYインジケータが点灯し、演奏がスタートします。ディスプレイはその曲の演奏経過時間を分秒で表示します。

▶例 演奏スタート後58秒経過



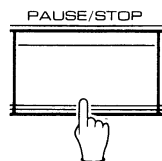
- ディスクにキズなどがありますと、演奏開始時間が遅れたり、途中から演奏することがあります。
- 偏芯したり、反ったディスクは演奏中に異音を発することがありますので、ご使用にならないでください。

6 1曲目から最後の曲まで連続して演奏します。ディスプレイは曲番と曲ごとの演奏経過時間を表示し、最終曲まで演奏すると自動的にストップ状態になります。

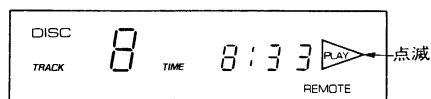
■演奏を一時停止させるときは

PAUSE/STOPキーを1回押します。

キーを押したところでポーズ（一時停止）し、PLAYインジケータが点滅します。演奏を再び始めるには、PLAYキーを押してください。



▶例 8曲目を演奏中、8分33秒でポーズ



■演奏をストップさせるには

PAUSE/STOPキーを2回押します。

PLAYインジケータが消え、演奏がストップします。ピックアップは1曲目の頭に戻ります。

■ディスクをとりだすには

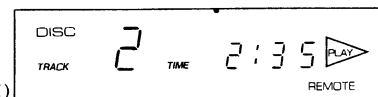
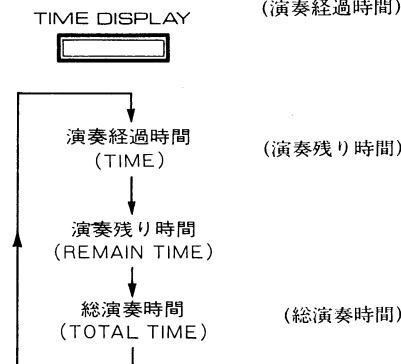
OPEN/CLOSEキーを押します。

ディスクトレイが出てきます。ディスクを取り出し、ディスクトレイを閉めてください。

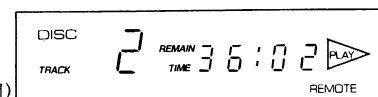
- OPEN/CLOSEキーはPOWERスイッチ以外のすべてのキー機能に優先します。例えば演奏中でもこのキーを押せば、演奏がストップしディスクを取り出すことができます。このような場合にも、本体、ディスクには何らの支障ありません。

■ディスプレイについて

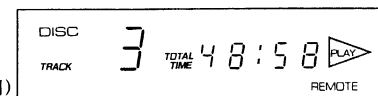
TIME DISPLAYキーを押すごとに、表示内容が切り変わります。



▶例 2曲目の演奏中、2分35秒経過



▶例 2曲目を演奏中、演奏終了まであと36分2秒



▶例 3曲目を演奏中、ディスク(プログラム)の総演奏時間は48分58秒

CDの選曲をするには

リモコンユニットで操作するときは、対応するキーをお使いください。

- “+” “-” キー、リモコンの10キーを使って、簡単にお好みの曲を選曲することができます。

演奏を開始する前、および演奏中の選曲

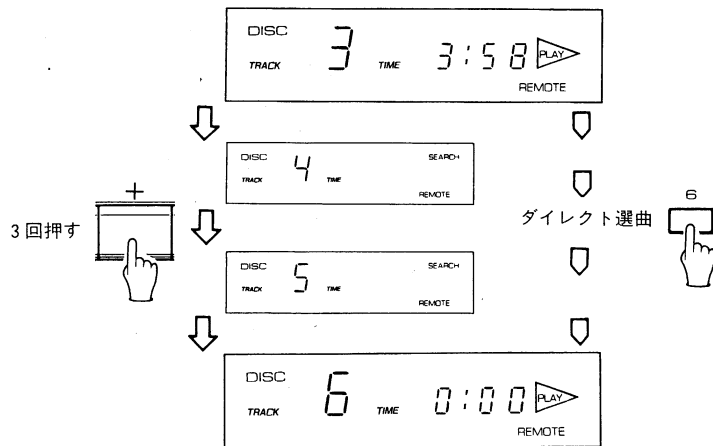
+ キー……押すごとに次の曲の頭に移ります。押し続けると連続的に変化し、最終曲番で止まります。

- キー……押すごとに前の曲の頭に戻ります。(演奏中はその曲の頭にまず戻ります) 押し続けると曲番1まで連続的に変化します。

10 キー……ダイレクトに選曲することができます。演奏させたい曲番を押し(リモコンのみ) ます。

- ディスクに収録されている曲番より大きな曲番を指定した場合には、自動的に最終曲番に表示が変わります。

例 曲番3を演奏中に、曲番6を演奏するとき



- 演奏中に選曲した場合は、選曲後にその曲を自動的に演奏します。
- ポーズ中に選曲した場合は、選曲された曲の頭でポーズ状態となります。

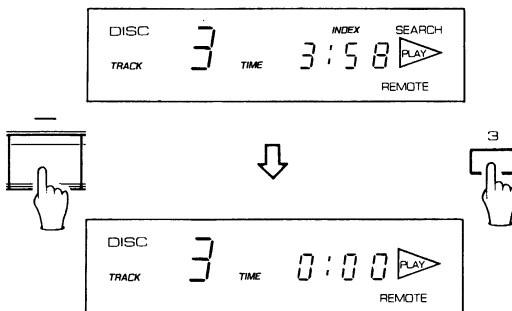
演奏中の曲の頭に戻るとき

- キー……“-”キーを1回押します。

10 キー……演奏している曲の曲番を押します。

(リモコンのみ)

例 曲番3を演奏中に、曲番3の頭から演奏し直すとき



早送りと早戻し

- 演奏中またはポーズ中に“<<” “>>” キーを使って、早送り・早戻し（サーチ）をすることができます。

演奏中(音出しサーチ)

“<<”または“>>”キーを押し続けると、始めの約3秒間は中速で、その後は高速で早送り・早戻しします。キーを押している間は、再生音を小さな音(約1/4)で聴くことができます。指を離れたところから演奏を再開します。

※ “>>” キーを押し続けて、最終曲の終わりまでサーチしますと、ストップ状態になります。

ポーズ中(音無しサーチ)

“<<”または“>>”キーを押し早送り・早戻しができますが、ポーズ中は音ができません。

ストップ状態のとき

インデックス指定モードになります。(→P40“インデックス演奏”)

CDのプログラム演奏

リモコンユニットで操作するときには、対応するキーをお使いください。

10キーの操作について

●曲番を訂正するには……

10キーを押し間違えた場合には、新たに正しい希望の番号を押しなおしてください。"+10"キーを押したあと、すぐに訂正する時は、一度PLAYキーを押してから新たに希望の番号を押してください。

●2桁の曲番を選曲するときは……

まず10キーの"+10"キーを押してから、1桁の番号を押します。

例 曲番15を選曲するとき

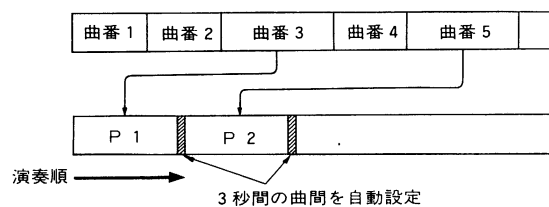
+10 keyでは1の位は、一表示
(次に0を押したときのみ10表示となります)

※指定した曲番が最終曲をこえる場合は、最終曲を演奏します。

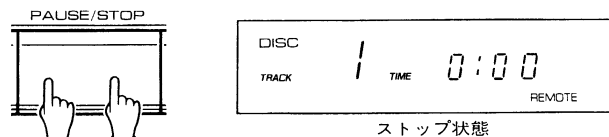
- ディスクに収録されている曲の中から、お好みの曲を選び順番を並び変えて(ランダム)演奏することができます。
- 最大16曲までプログラムすることができます。
- プログラム演奏は3秒間の曲間が自動的に設定されますので、カセットテープなどへのダビングの際に便利です。

プログラムのセットのしかた

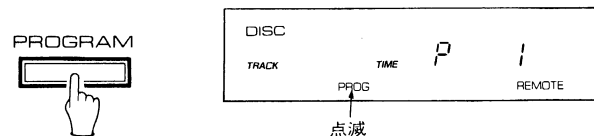
例 次のようなプログラムは……



1 PAUSE/STOPキーを2回押しストップ状態にします。

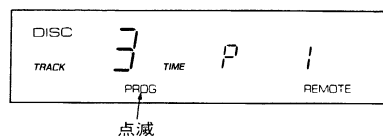


2 PROGRAMキーを押します。 ディスプレイにP 1(プログラム1)の表示が出、PROGインジケーターが点滅、プログラムのセットが可能であることを示します。

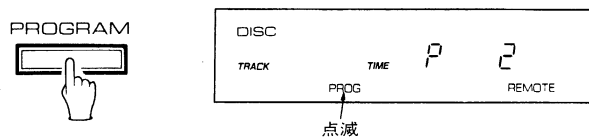


リモコンユニットで操作するときは、対応するキーをお使いください。

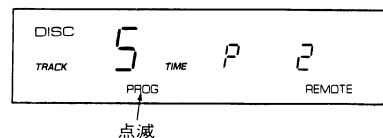
- 3** “+”、“-”キーを使ってお好みの曲番をセットします。
※10キーでのプログラムセットはできません。



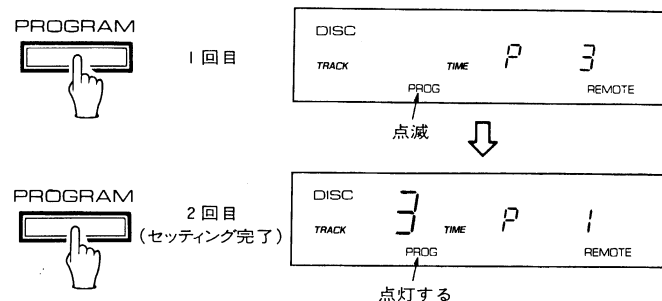
- 4** 再びPROGRAMキーを押します。ディスプレイはP 2 (プログラム 2) に変わり、P 1 へのプログラムセットが完了したことを示します。



- 5** P 2 へのプログラムセットです。お好みの曲番をセットします。
●“+”、“-”キーによる曲番指定は、前の曲番から“+”、“-”指定となります。



- 6** プログラム設定を終える場合、PROGRAMキーを2度続けて押します。
- このように交互に、PROGRAMキーを押して曲番を指定することにより最大16曲までプログラムすることができます。
 - 16曲までセットしますと、自動的にP 1に戻り、演奏スタンバイ状態となります。
 - PROGRAMキーを押し続けても設定を完了することができます。



TIME DISPLAYキーを押し、TOTAL TIME表示にしますとプログラムの総演奏時間が表示されますのでカセットテープなどに録音する際に、活用ください。

プログラムの演奏のしかた

- 1** PLAYキーを押します。PLAYインジケーターが点灯し曲番3、曲番5、の順で演奏がスタートします。ディスプレイは演奏経過時間を表示します。
- 2** プログラムの演奏が終了しますと、自動的にP 1に戻りスタンバイ状態になります。

プログラム演奏を止めるには

●ポーズ

PAUSE/STOPキーを1回押します。PLAYインジケーターが点滅し、ポーズ状態になります。

演奏を再開するときは、PLAYキーを押します。

●ストップ

PAUSE/STOPキーを2回押します。PLAYインジケーターが消灯し、P1に戻ります。

プログラム演奏中の選曲操作

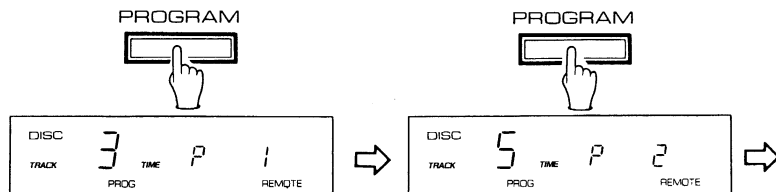
プログラム演奏中に“+”または“-”キーを押しますと、プログラムされている順番で前後の頭出しができます。さらにリモコンユニットの10キーを使いますと、プログラムされていない曲の選曲も可能となります。

プログラム演奏中の早送り、早戻し

“<<”または“>>”キーを押しますと、プログラムに関係なく、早送り、早戻しができます。

プログラム内容のチェック

ストップ状態にしてPROGRAMキーを押せば、キーを押すごとにプログラムされた曲番が表示されます。

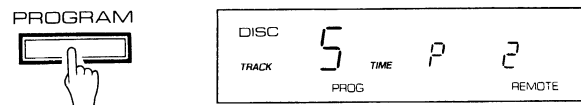


プログラムの変更

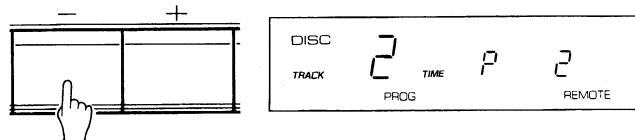
変更したいプログラム番号をPROGRAMキーでディスプレイに表示させます。プログラムのセットと同様の方法でそのプログラムの上にセットしなおします。前のプログラムは消え、新しいプログラムに変わります。

▶例 プログラム2を曲番5から曲番2に変更するときは、

PROGRAMキーを押しP2、曲番5を呼びだします。



次に、“-”キーを3度押し、曲番2に変更します。これで完了です。



プログラムの解除

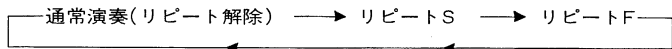
OPEN/CLOSEキーによるディスクトレイを開閉するか、あるいは電源を切りますと、すべてのプログラムを解除することができます。

- インデックスのプログラム演奏はできません。
- プログラムの総演奏時間が99分59秒を越えた場合のTOTAL TIMEとREMAIN TIMEは100分代の数字を除いた表示をします。
- プログラム演奏で曲番が20以上の曲をプログラムしたときは、REMAIN TIME、TOTAL TIMEは表示されません。

CDのリピート演奏

リモコンユニットで操作するときは、対応するキーをお使いください。

- REPEATキーを使いますと、ディスクの中のお好みの1曲、またはディスクの全曲をリピート（繰り返し）演奏することができます。
- プログラムをしますと、任意数曲のリピート演奏をすることができます。
- REPEATキーは押すごとに、S（シングル：一曲）、F（フル：全曲）に変わります。

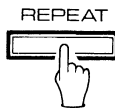


- リピート演奏は、演奏中、ポーズ中、プログラム演奏中、スタンバイ中の何れの状態でも指定することができます。

■ 一曲リピート

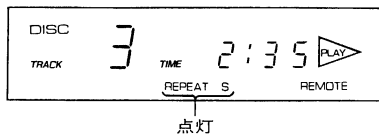
1 “+”、“-”キーまたは10キーを使ってリピートさせたい曲番を選びます。

2 REPEATキーを一回押します。REPEAT S インジケーターが点灯します。



3 PLAYキーを押します。PLAYインジケーターが点灯し、リピート演奏がスタートします。

▶ 例 3曲目をリピート演奏中



■ 全曲リピート

1 REPEATキーを2回押します。REPEAT F インジケーターが点灯します。

2 PLAYキーを押します。PLAYインジケーターが点灯し全曲リピート演奏がスタートします。

■ プログラムのリピート演奏

1 36ページの「プログラム演奏」を参照して、お好きな曲をプログラムします。

2 REPEATキーを押し、REPEAT F のインジケーターを点灯させます。プログラムの全曲を、その順序でリピート演奏します。

- REPEAT S では、プログラムに関係なく、演奏中の曲の一曲リピートになります。

■ リピート演奏の解除

リピート演奏を解除する場合は、REPEATキーを押しREPEAT S または F のインジケーターを消灯させてください。

また、ディスクトレイを開閉したり、電源スイッチを切りますと、リピートは解除されます。

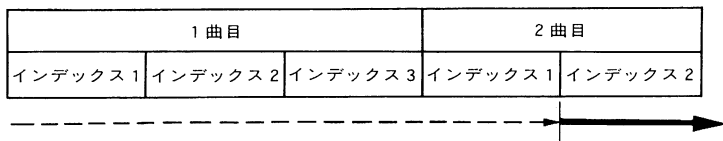
- タイマー演奏をする際にリピート演奏の指定はできません。

CDのインデックス (IN:DEX) 演奏

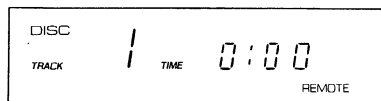
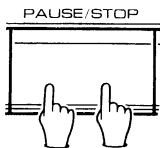
◻リモコンユニットで操作するときは、対応するキーをお使いください。

インデックス番号（クラシック曲の第何楽章など）が設定されているディスクの場合は、“◀◁”、“▷▷”キーでお好みのインデックスから演奏をスタートさせることができます。インデックス番号については、ディスクの説明書をご参照ください。

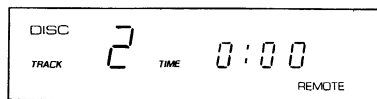
◻例 2曲目のインデックス2から演奏するとき



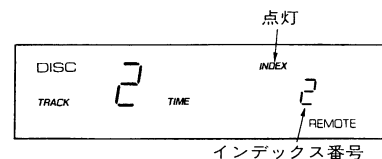
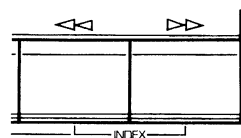
- 1** PAUSE/STOPキーを2回押し、ストップ状態にします。
ストップ状態のときのみインデックスの指定をすることができます。演奏中やポーズ中には指定することはできません。



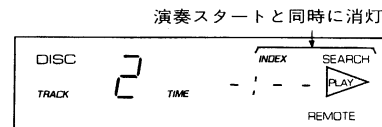
- 2** “+”、“-”キーまたはリモコンの10キーで曲番を選びます。



- 3** “▷▷”キーを押しますとINDEXインジケータとインデックス番号が点灯します。“▷▷”キーを押すごとにインデックス番号は進み、“◀◁”を押すごとに番号が戻ります。この場合“▷▷”キーを2回押します。



- 4** PLAYキーを押します。
PLAYインジケータが点灯し、指定したインデックスから演奏がスタートします。

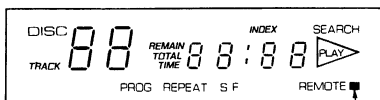
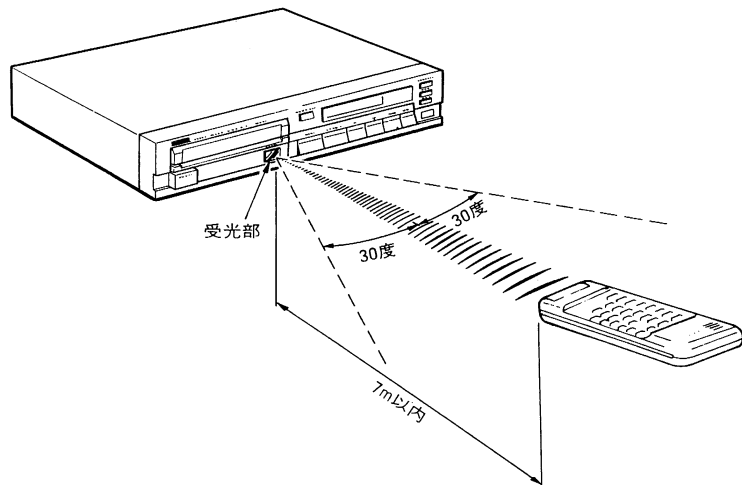


- ディスクに記載されているインデックス番号より大きな数を指定した場合、最終インデックス番号より演奏します。
- インデックス指定はPAUSE/STOPキーを押せば解除されます。
- インデックス演奏のときは、曲の少し前から再生することがあります。
- インデックスの頭出しは、PLAYキーを押して演奏を始めますと自動的に、インデックスは解除されINDEXインジケータも消えます。
- インデックス番号の記録されていないディスクの場合、インデックス番号1を表示してから演奏が始まります。
- インデックスの頭出しには、多少時間がかかることがあります。
- タイマー演奏をする際に、インデックス演奏は出来ません。

CDのリモコン演奏

付属のリモコンユニットをご使用になりますと、基本操作のほとんどが離れた場所から操作できます。

なお、信号光は直進性の高い赤外線を使っていますので、受光部との角度にご注意ください。

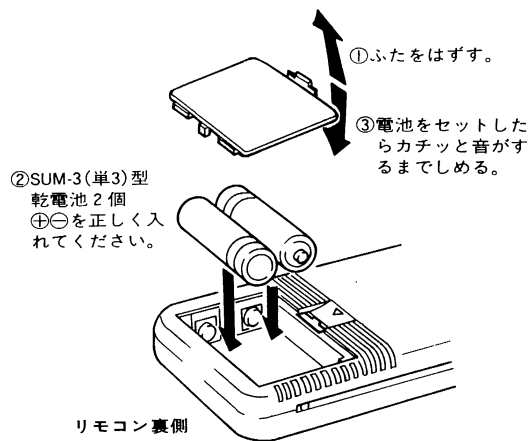


このインジケーターが点灯するように

電池の交換時期は？

リモコン操作できる距離が短くなってきたら電池が消耗しています。このときは、2本とも新しい電池に交換してください。電池がまったく消耗すると、ボタンを押しても受信シグナルがつかなくなります。

●電池の交換は



- プラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに正しく入れてください。
- 弱ってきた電池は、早めに交換してください。
- 新しい乾電池と一度使用したものを混ぜて使わないでください。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状で性能の異なるものがあります。
- 電池には充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 電池の⊕と⊖を金属片などで直接つなぐこと(ショート)はしないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液もれが起こったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

CDのタイマー演奏

別売のオーディオタイマーと組み合わせると、希望の時間に演奏を始めることができ、お好みのディスクで目覚まし再生を行なうことができます。

- ①本機の電源プラグをアンプのリアパネルのコンセントに接続します。
- ②アンプの電源プラグをタイマーの連動コンセントに接続します。
- ③本機の電源スイッチを入れてディスクを正しくセットします。
- ④アンプの電源スイッチを入れてINPUT SELECTORをCDにし、アンプの音量を調節します。
- ⑤タイマーで演奏開始時間と終了時間をセットします。
(このとき、各機器の電源が切れたことを確かめてください。)

※タイマーで時間をセットする方法は、タイマーの取扱説明書をご覧ください。
以上でタイマーにセットした時刻がくると自動的にディスクの第一曲目から演奏が始まります。
※プログラム演奏、リピート演奏はできません。

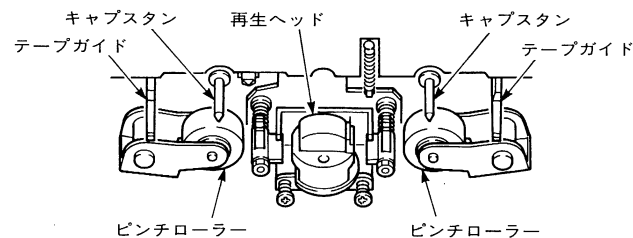
デッキ部のお手入れ(未長くご愛用 いただくために)

デッキを長時間ご使用になっていますと、キャプスタン、ピンチローラー及びヘッドの汚れや帯磁が原因で、音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりしてきます。市販の綿棒、クリーニング液やクリーニングテープ、ヘッドイレーサーをご使用になり、定期的にクリーニングや消磁をしてください。

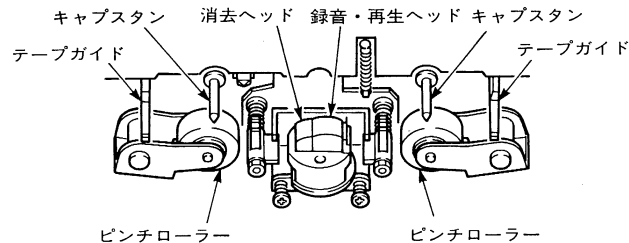
クリーニングはおよそ10時間ごとに、消磁は20～30時間を目安に行なってください。また特に大切な録音をするときや、古いテープを使った後もクリーニングしておきましょう。

- ヘッドのクリーニングの際は、ヘッドに無理な力を加えないようご注意ください。また、消磁の際は、ヘッドイレーサーの説明書を充分参照してください。

DECK A



DECK B



カセットテープについて

市販のカセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

■カセットテープの録音時間による分類

カセットテープの型名は、両面往復時間を“分”単位で表示してあります。

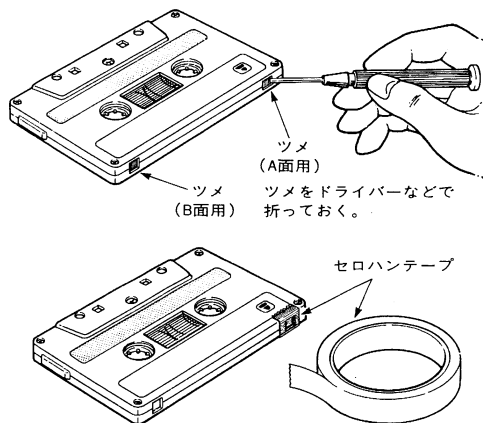
種 類	録 音 再 生 時 間		テ ー プ の 長 さ (m)
	片 道 (分)	往 復 (分)	
C-46	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

※C-120テープは、テープが薄いため音質面でも音楽録音には適当ではありません。
できるだけ上記のテープをご使用ください。

■録音内容の保存

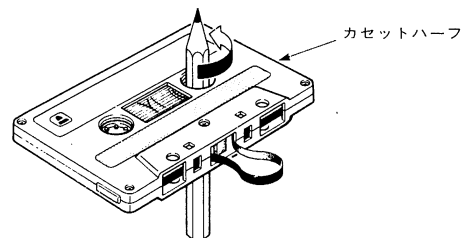
カセットハーフには、大切な録音をあやまって消さないように消去防止用の穴があります。録音後、この穴のツメをドライバーなどで取り去ると重ねて録音できませんから、録音内容をいつまでも保存することができます。

また、ツメを折ったテープに再び録音したい場合には、セロハンテープなどで穴をふさいでください。



■テープのたるみを直す

テープがとび出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。こんな場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差込んで巻き取り、テープのたるみを直してからご使用ください。



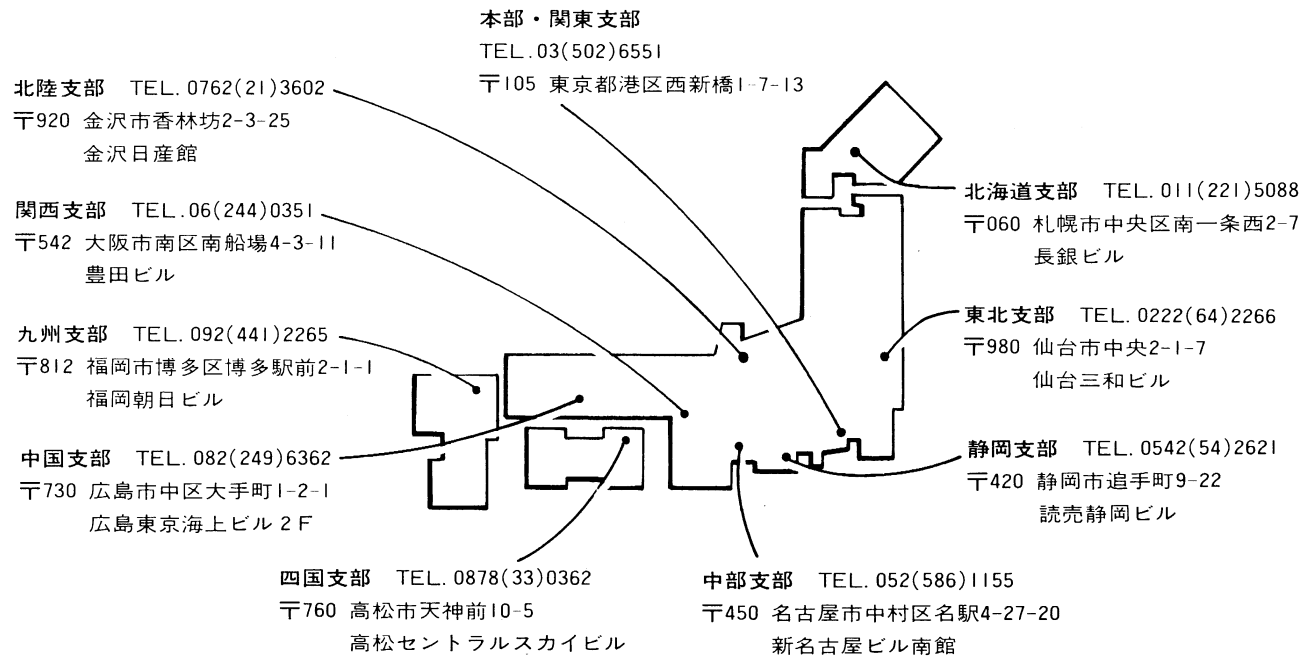
■カセットテープの保管は

カセットケースに入れ、直射日光(高温)、湿気および磁気のあるところ(テレビやスピーカーの近く)を避けて保管してください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消してしまいます。

著作権について

あなたが、本機で録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■日本音楽著作権協会



故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。

そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

	どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
チューナー部	FM放送やテレビ音声に“ザー”という音が入る	TV/FMアンテナを“近”の端子につないでいる アンテナの方向が悪い	“遠”の端子につないでください アンテナの方向を変えてください
	AM放送に“ザー、ビー、シー”などの音が入る	CDプレーヤーやテレビなどのそばで同時に使用している	CDプレーヤーおよびテレビを消すか、または本体を離してください
テープ部	録音、再生時にテープが回らない	テープがたるんでいたため、ピンチローラーにまきついている	テープを使用する前にテープのたるみを鉛筆などでとる
	録音できない	カセットテープ後部のツメが折れている ヘッドが汚れている	カセットテープを交換するか、ツメの部分でセロハンテープなどでカバーしてください ヘッドを清掃する
	音がかすれる 音飛びがする	ヘッドが汚れている ヘッドが帯磁している テープ走行面が汚れている	クリーニングテープでヘッドを清掃してください ヘッドイレーサでヘッドの消磁をしてください 新品テープと交換してください
	再生の音がひずむ	テープがいたんでいる(片伸びなど変形)	新品テープと交換してください
	再生音の音質が悪い	DOLBY NRボタンのセットが違っている	録音したときと同じ状態にDOLBY NRボタンをセットしてください
	左右のバランスが悪い	ヘッドが汚れている	ヘッドを清掃する
	雑音が多い	ヘッドが汚れている ヘッドが帯磁している 古いテープを使用している	クリーニングテープで清掃してください ヘッドイレーサでヘッドの消磁をしてください 良質なテープと交換してください

	どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
デッキ部	録音または再生の途中でストップしてしまう	テープがゆるんでいたり、飛び出していた テープに折れ、キズがある 本機フロントパネルに直射日光などの強い光があたっている	鉛筆などでカセットハーフのリール軸をまわして、テープを張り直してください 強い光をあてないようにしてください
	一曲頭出しができない	無録音部分が短い 曲の途中で録音レベルが非常に低い部分がある エアチェックなどで会話が録音されている	一曲頭出し機能は、無録音部分が4秒以上ないと働きません
CDプレーヤー	ディスクを入れても演奏できない	ディスクが裏がえしにセットされている	ディスクのラベル面を上に入れてください
		ディスクがひどく汚れている	クリーニングしてください
	音が出ない	出力コードの接続が不完全	接続を確認してください
		アンプの操作が間違っている	アンプのスイッチの位置を確認してください
	音飛びがする	本機が震動やショックを受けている	設置場所をかえてください
		ディスクがひどく汚れている	クリーニングしてください
	ブーンというハム音が出る	出力コードのプラグの接続不良	出力コードのプラグをしっかりと差し込みなおしてください
チューナーにノイズがはいる	本機とチューナーの設置場所が近い	チューナーから遠ざけるか、本機の電源を切ってください	
リモコンユニットでは操作できない	乾電池が消耗している	受信シグナルが点灯しないときは、乾電池を2本とも交換してください	
	送信機が受光部に向いていない	リモコンユニットを受光部に向けてキーを押してください	
スピーカー	スピーカーから音が出ない	スピーカーコードが端子からはずれている	コードをしっかりとつないでください
		ミキシングつまみが "MIC" になっている	"SOURCE" にしてください
	低音がでない。不自然な音で音像が安定しない	スピーカーの極性(+、-)が合っていない	コードを正しくつないでください

参考仕様

アンプ部

回路方式	OCLアンプ
実用最大出力	25W + 25W (EIAJ) 10% THD
全高調波歪率	0.2% (8Ω、5W出力時)

チューナー部

受信周波数	TV (UHF): 13~62CH TV (VHF): 4~12CH FM/TV (1~3CH): 76~108MHz AM: 530~1,605kHz
実用感度	TV (UHF): 12.5μV (SN30dB/75Ω) TV (VHF): 5.5μV (SN30dB/75Ω) FM/TV (1~3CH): 3.5μV (SN30dB/75Ω) AM: 400μV/m (バーアンテナ)

デッキ部

トランク方式	コンパクトカセットステレオ
録音方式	交流バイアス (DECK Bのみ)
消去方式	交流消去 (DECK Bのみ)
ヘッド	(DECK A) 再生ヘッド×1 (DECK B) 録音・再生ヘッド×1 消去ヘッド×1
モーター	電子制御DCモーター×2 (DECK A×1、DECK B×1)
テープ	ノーマル/メタル (DECK A、DECK B)
早巻時間	約110秒 (C-60テープにて)
周波数範囲	ノーマルテープ 30~13,000Hz (EIAJ) メタルテープ 30~15,000Hz (EIAJ)
S/N比	ドルビーNR OFF 57dB (EIAJ、メタルテープ) ドルビーNR ON: 67dB (EIAJ、メタルテープ)

総合

入力端子	マイク: 4mV (10kΩ、推奨マイクインピーダンス600Ω) 直径6.3mm 標準ジャック プレーヤー: 150mV (47kΩ) CD入力: 300mV (47kΩ) VCR・VDP入力 (補助入力): 300mV (47kΩ)
出力端子	RCAピンジャック ヘッドホン: (8~32Ω) 直径6.3mmステレオ標準ジャック フロントスピーカー: (8~16Ω) リアスピーカー: (8~16Ω)
その他の端子	TV/FMアンテナ (遠・近) AMアンテナ アンテナアース
電源	100V AC、50/60Hz
消費電力	AC64W (電気用品取締法にもとづく)
最大外形寸法	340 (幅) × 256 (高さ) × 321 (奥行) mm (EIAJ)
重量	約6.6kg

スピーカー

型式	バスレフ型2ウェイスピーカーシステム
スピーカー	16cm (丸型) フリーエッジウーハー 5cm コーンツイーター
再生帯域	60Hz~20kHz
最大入力	40W
定格入力	25W
インピーダンス	8Ω
音圧レベル	88dB/w/m
内容量	9.2ℓ
最大外形寸法	225 (幅) × 335 (高さ) × 202 (奥行) mm (EIAJ)
重量	約3.2kg (1台) × 2

CDプレーヤー

■型 式 コンパクトディスク・デジタル・オーディオ・システム

■オーディオ特性

周波数特性	5~20kHz $_{-1.0}^{+0.5}$ dB
ディエンファシス偏差	$_{-1.0}^{+0.5}$ dB
高調波ひずみ+雑音	0.004%以下1kHz(EIAJ)
SN比	100dB
ダイナミックレンジ	95dB(EIAJ)
ワウ・フラッター	測定検知限以下
チャンネル・セパレーション	85dB(1kHz)
出力電圧	2Vr.m.s.
出力インピーダンス	2k Ω
ヘッドホン出力電圧(8 Ω 負荷)	150mV

■方 式

光ピックアップ	3ビーム・レーザー
エラー訂正方式	CIRC. 2重エラー訂正方式
D/A変換	16ビットリニア
フィルター	デジタルフィルター+3次 アクティブフィルター
ディスプレイ	蛍光表示管

■機 能

頭出し	"+"・"-"キーによる順次頭出し (リモコンのみ10キーによる頭出し)
インデックスサーチ	ストップ時のみインデックス指定可能 "<<"・">>"キーによる指定 プレイキーでインデックスサーチ
音出しサーチ(演奏時)	"<<"・">>"キーによるサーチ 2段階スピード自動切換
ポーズ	ポーズ/ストップキーを1回押す

ストップ

総演奏時間表示
演奏残り時間表示
プログラム機能

ポーズ/ストップキーを2回押す

TIME DISPLAYキーにて

//

16曲ランダム

再生時、曲間3秒以上のスペース

(スペースプレイ機能)

合計時間表示機能

リピート

1曲、全曲またはプログラム全部のリピート

オートプレイ

ディスク装着時パワーONでオートプレイ

リモコン

OPEN/CLOSE、+10、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、

—、+、PLAY、<<、>>、PAUSE/STOP

■最大外形寸法

340(幅)×80(高さ)×290(奥行)mm

■重 量

3.0kg

付属品

- FM/TV用アンテナ×1
- 電源コード×1(CDプレーヤー専用)
- 出力コード×1(")
- リモコンユニット×1(")
- 単三乾電池×2(")

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインネットワークサービス

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様の要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスを依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(0252)43-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 日本楽器宮竹工場内北側 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 ステレオ北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F ステレオ仙台営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F ステレオ首都圏営業所 TEL(03)255-5691 ステレオ神田営業所 TEL(03)255-6767 ステレオ北関東営業所 TEL(03)255-1825 ステレオ東京営業所 TEL(03)255-2302
名古屋	〒464 名古屋市中千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 ステレオ名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区数津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 ステレオ関西営業所 TEL(06)647-6411 ステレオ大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いよぎん広島ビル内 ステレオ中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ステレオ九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 オーディオ事業部 国内営業部 TEL(0534)60-3421

*このバーコードシールはヤマハフィーリングクラブ応募用のもので商品管理用のものではありません。

YAMAHA feelin' club



T4960693003725

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

オーディオ事業部国内営業部 TEL.(0534)60-3421

管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。